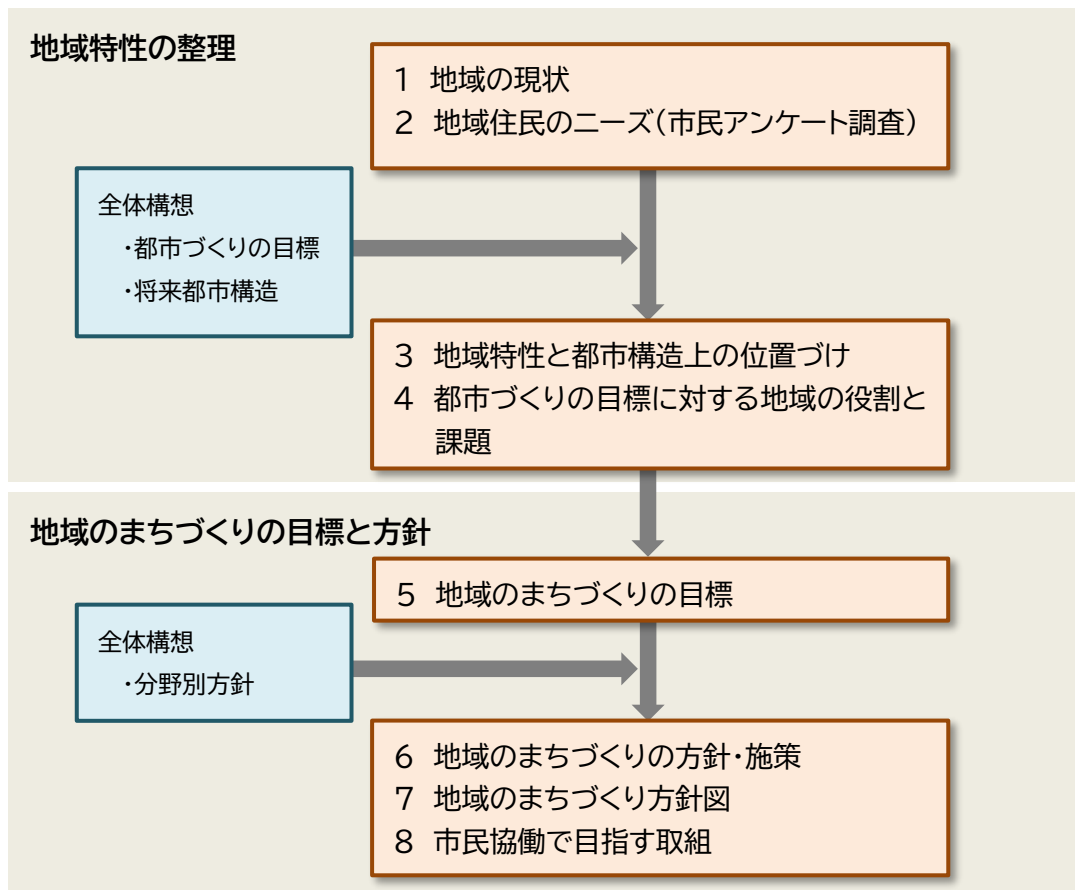


第3章 地域別構想

1. 地域別構想とは

地域別構想は、市民にとって身近な生活圏の範囲ごとに、各地域の特性・個性や地域ニーズにきめ細かく対応し、全体構想に示された都市づくりの目標や将来都市像を踏まえ地域のまちづくり目標を定め、地域らしさのあるまちづくりの方針となります。

図 地域別構想策定フロー



2. 地域区分

地域区分設定の考え方で示した日常生活圏の広がりをもととしつつ、本市におけるコミュニティ（まちづくり）活動の状況などを考慮し、前計画と同じく中学校区を基本に地域区分を設定します。

図 地域区分図



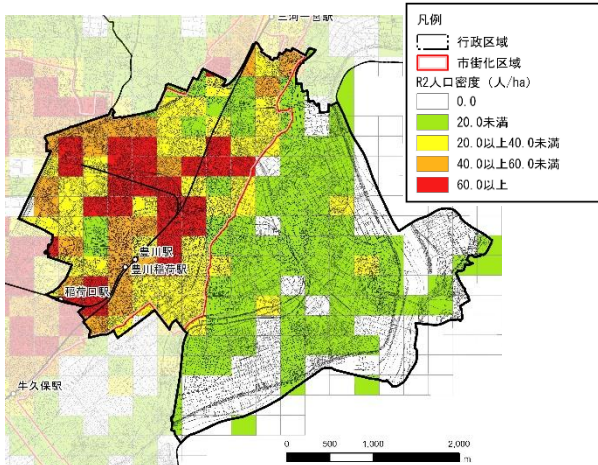
東部地域

(1) 地域の現状

- 市街化区域の人口密度は概ね 40 人/ha 以上となっていますが、JR 豊川駅及び名鉄豊川稲荷駅周辺と豊川インターチェンジ周辺では 40 人/ha を下回る場合があります。
- 市街化区域内には、(都)前芝豊川線などの沿線に商業用地が分布しており、それに囲まれるように住宅用地が分布し、豊川インターチェンジ周辺には工業用地が集積しています。また、豊川稲荷などの社寺や学校をはじめとする公益施設用地、桜ヶ丘公園をはじめとする公共用地も多く分布しています。

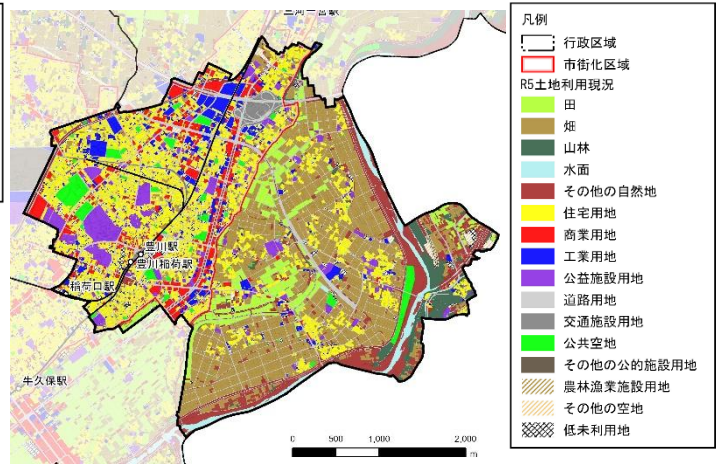
東部地域		平成27年	令和2年	令和7年	市全体からみた 東部地域の割合(R7)
地域 全体	面積(ha)	1,354.3	1,354.3	1,354.3	8.4%
	市街化区域面積(ha)	589.5	589.5	589.5	16.6%
	人口(人)	29,659	29,614	29,760	16.0%

図表 ゾーン別人口密度



(資料: 令和2年国勢調査)

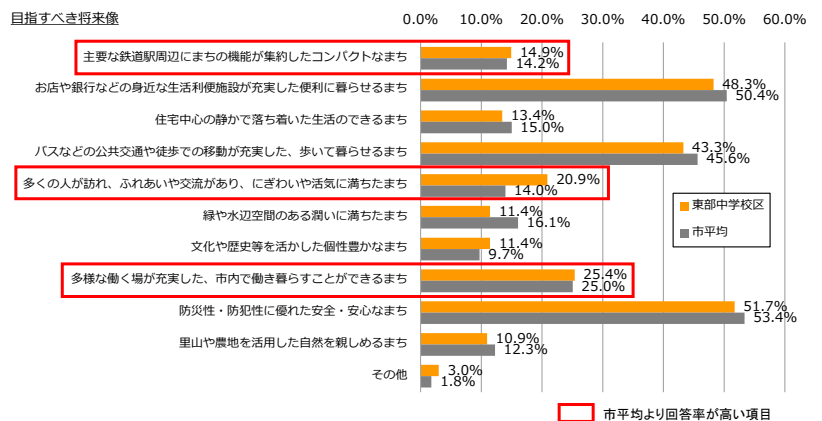
図表 土地利用現況図



(資料: 令和5年都市計画基礎調査)

(2) 地域住民のニーズ

- 目指すべき将来像について、「防災性・防犯性に優れた安全・安心なまち」の回答率が最も高く、市平均よりも回答率が高い項目は、「多様な働く場が充実した、市内で働き暮らすことができるまち」などが挙げられます。



(3)地域特性と都市構造上の位置づけ

- 中心拠点の一角をなすJR豊川駅及び名鉄豊川稲荷駅周辺には高密度な市街地が形成されています。
- 豊川稲荷は歴史文化資源であり、本市の重要な観光資源でもあります。
- 中心市街地を貫く(都)姫街道線は本市の交通軸の骨格となっています。
- 豊川稲荷周辺と三上緑地は緑の拠点として位置づけています。

(4)都市づくりの目標に対する地域の役割と課題

都市づくりの目標	地域の役割と課題
①生活圏ごとに様々な機能が使いやすく配置され、歩いて暮らしやすく、住みたいと思える都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心拠点としての商業及び業務機能の充実 ・ 安心して快適な中心市街地の歩行者空間の充実
②多様な産業が集積、連携し、歴史・文化を生かした多彩な交流が育まれる魅力ある都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史及び観光の拠点である豊川稲荷を生かした観光・商業機能の充実 ・ 東名高速道路豊川インターチェンジ周辺地区の産業集積の促進 ・ (都)前芝豊川線、(都)東三河環状線、(都)豊川新城線などの広域幹線道路網の整備促進
③市民がいつまでも安全で安心して、暮らし続けることができる都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地のバリアフリー化、ユニバーサルデザインのまちづくり ・ 中心市街地におけるまちなか居住及び都市機能誘導施設の誘導促進 ・ 質の高い居住基盤の整備
④山並みや田園風景、海や川を守り、都市の個性が輝き、地球環境にもやさしい都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街化調整区域に広がる田園と豊川の河川空間の環境保全 ・ 豊川稲荷の門前町の歴史性・風格を感じられる良好な景観形成
⑤多様な担い手が支え、連携・協働する安定した都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街や地元事業者などによる地域との協働・連携による中心市街地活性化

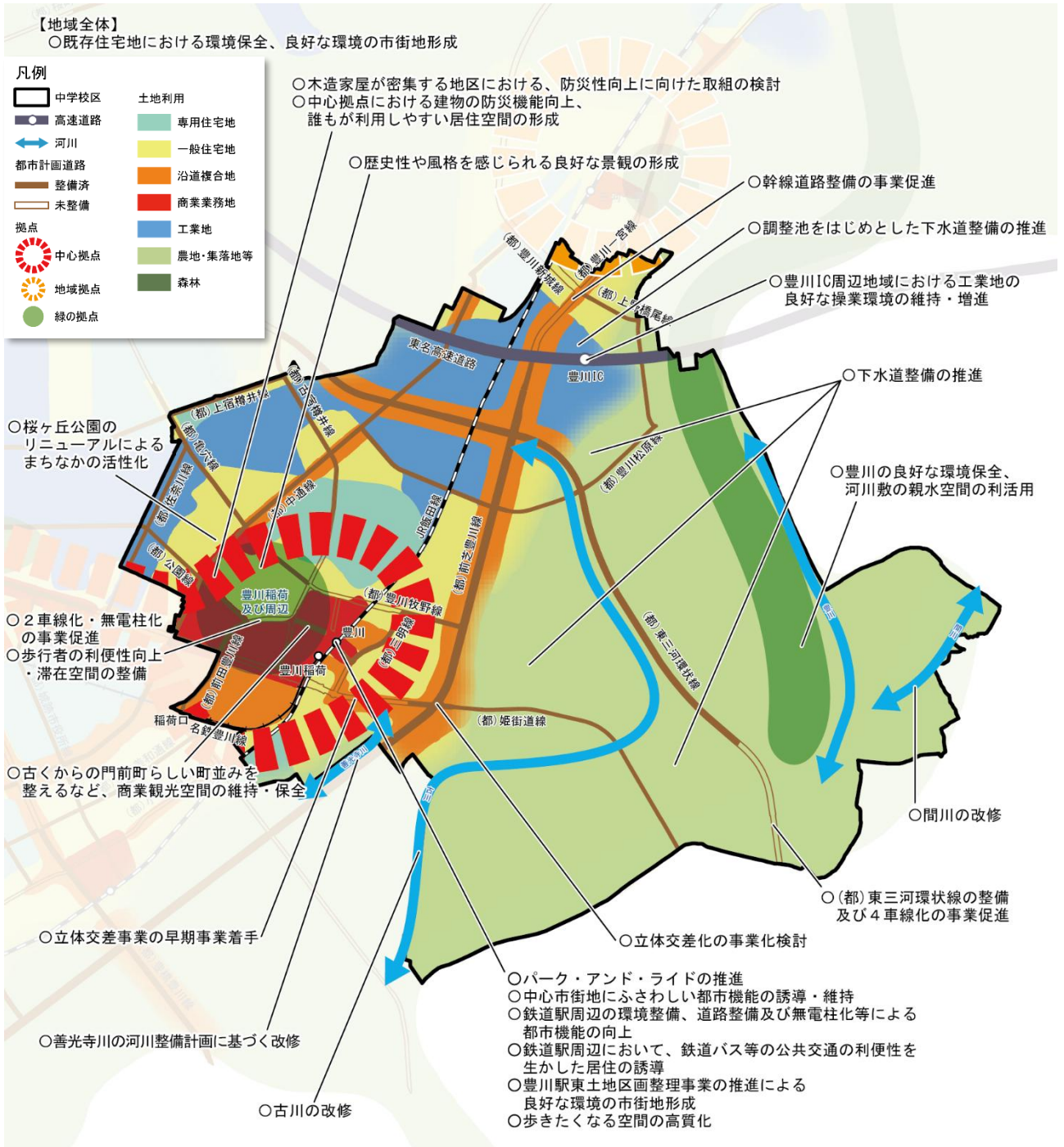
(5)地域のまちづくりの目標

- ①中心拠点にふさわしい商業・業務機能を誘導し、にぎわいがあるまちづくり
- ②質の高い環境のまちなか居住を実現するまちづくり

(6)地域のまちづくりの方針・施策

項目	方針・施策	目標
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ■東名高速道路豊川インターチェンジ周辺地域における工業地においては、良好な操業環境の維持・増進を図ります。 ■鉄道駅周辺と豊川稲荷周辺において、地域住民の生活を支えるとともに、観光資源（豊川稲荷など）を生かした商業機能を充実させることにより、中心市街地にふさわしい都市機能の誘導・維持を図ります。 ■鉄道駅周辺や幹線道路沿道では、鉄道、バスなどの公共交通の利便性を生かし、居住の誘導を図ります。また、日常生活を支える商業やサービス機能などの維持及び確保を図ります。 	<p>①</p> <p>①</p> <p>②</p>
都市施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ■広域幹線道路の整備に向け、関係機関に働きかけます。 <ul style="list-style-type: none"> ・（都）東三河環状線の整備及び4車線化の事業促進 ・（都）姫街道線とJR飯田線、名鉄豊川線との立体交差事業の早期事業着手 ・（都）豊川新城線（国道151号バイパス）の事業促進 ・（都）前芝豊川線（国道151号）・（都）豊川一宮線（国道151号）の事業促進 ・（都）前芝豊川線（国道151号）と（都）姫街道線との立体交差事業に向けた検討 ・（都）前田豊川線の2車線化・無電柱化の事業促進、歩行者の利便性向上・滞在空間整備 ■桜ヶ丘公園のリニューアルにより、まちなかの活性化を図ります。 ■門前町と調和させた稲荷公園の再整備により、豊川稲荷周辺の回遊性の向上を図ります。 ■豊川市下水道基本計画に基づき、調整池をはじめとした下水道整備を推進します。 ■JR豊川駅周辺の基盤整備等、歩きたくなる空間への高質化を図ります。 	<p>①</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>②</p> <p>①</p>
市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ■市内外からの集客を一層図るため、JR豊川駅東西自由通路をはじめとした駅周辺の環境整備、道路整備及び無電柱化などのおもてなし空間の整備などを通じた都市機能の向上を図ります。 ■豊川稲荷の周辺においては、古くからの門前町らしい町並みを整えるなど、商業観光空間の維持・保全を図ります。 ■既存の住宅地の環境保全を図るとともに、豊川駅東土地地区面整理事業の推進等により安全で快適な居住空間を確保し、良好な環境の市街地形成を図ります。 ■鉄道駅周辺では、利用実態等を踏まえ、公共駐車場や自転車駐車場のあり方の見直しを検討した上で、必要に応じて整備を行うことにより、パーク・アンド・ライドを推進し、鉄道の利用促進を図ります。 ■木造家屋が密集する地区については、地域と連携した防災性向上に向けた取組を検討します。 	<p>①</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>②</p> <p>②</p>
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ■豊川稲荷の門前町では、歴史性や風格を感じられる良好な景観形成を図ります。 ■豊川の良好な環境保全及び河川敷の親水空間の利活用を図ります。 	<p>①</p> <p>②</p>
都市防災	<ul style="list-style-type: none"> ■中心拠点における建物の防災機能を高めるとともに、誰もが利用しやすい居住空間を形成します。 ■古川、間川の改修を関係機関に働きかけます。 ■善光寺川の河川整備計画に基づく改修について関係機関に働きかけ、協力します。 	<p>②</p> <p>②</p> <p>②</p>

(7)地域のまちづくり方針図



序章 計画の前提

第1章 都市としての課題整理

第2章 全体構想

第3章 地域別構想

第4章 計画の実現に向けて

(8)市民協働で目指す取組

- 商店街や地元事業者などが協力し、にぎわい創出を図る事業を推進するとともに、若手人材の育成を通じて地域が主体的に事業を実施する環境を整えます。

ほいとも祭



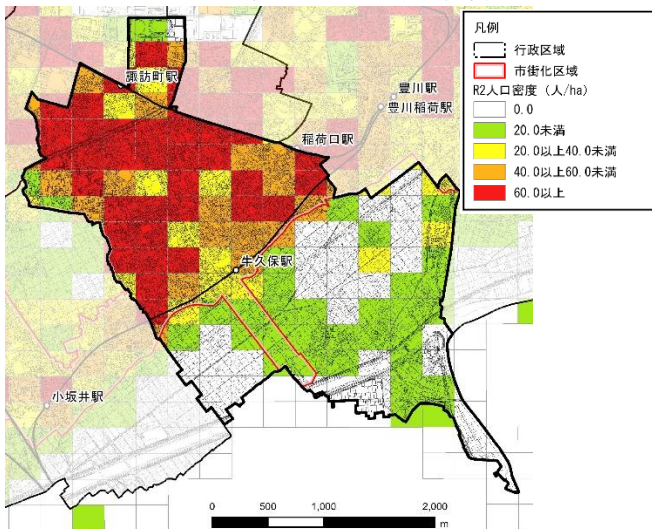
南部地域

(1) 地域の現状

- 市街化区域の人口密度は概ね 40 人/ha 以上となっています。
- 豊橋市とを結ぶ(都)豊橋豊川線沿道には郊外型の店舗が集積しています。地域内は住宅用地が広く分布し、西端の堺町には工業用地も分布しています。また、学校や市役所などの比較的規模の大きい公益施設用地も多く分布しています。

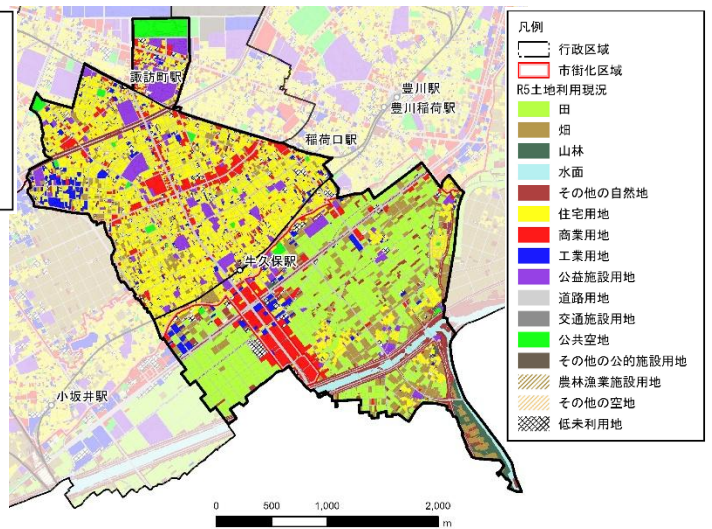
南部地域		平成27年	令和2年	令和7年	市全体からみた南部地域の割合 (R7)
地域全体	面積(ha)	791.9	791.9	791.9	4.9%
	市街化区域面積(ha)	410.7	410.7	410.7	11.6%
	人口(人)	24,726	25,123	24,882	13.4%

図表 ゾーン別人口密度



(資料: 令和2年国勢調査)

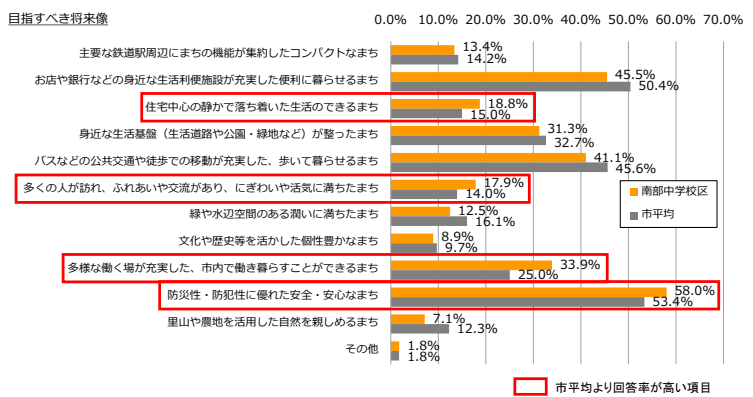
図表 土地利用現況図



(資料: 令和5年都市計画基礎調査)

(2) 地域住民のニーズ

- 目指すべき将来像について、回答率が高いのは「防災性・防犯性に優れた安全・安心なまち」、次いで「お店や銀行などの身近な生活利便施設が充実した便利に暮らせるまち」となっています。また、市平均よりも回答率が高い項目は、「多様な働く場が充実した、市内で働き暮らすことができるまち」などが挙げられます。



(3)地域特性と都市構造上の位置づけ

- 中心拠点の一角である名鉄諏訪町駅周辺から(都)姫街道線にかけての地域は、商業集積とともに、市役所や中央図書館、豊川公園などが立地する文化交流の拠点が形成されています。
- 地域の南北の骨格軸である(都)豊橋豊川線は豊橋市の中心部と直結する広域交通軸として位置づけています。
- J R牛久保駅周辺には、古くからの密集した市街地が形成されています。

(4)都市づくりの目標に対する地域の役割と課題

都市づくりの目標	地域の役割と課題
①生活圏ごとに様々な機能を使いやすく配置され、歩いて暮らしやすく、住みたいと思える都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心拠点の一翼を担う地区としての商業及び業務機能の充実 ・ 地域の顔となる名鉄諏訪町駅周辺の基盤整備と安心で快適な歩行者空間の充実
②多様な産業が集積、連携し、歴史・文化を生かした多彩な交流が育まれる魅力ある都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ J R牛久保駅周辺の歴史文化資源を活用したまちづくり ・ 豊川公園でのスポーツイベントや、まちづくり団体などの多様な主体と連携した利活用
③市民がいつまでも安全で安心して、暮らし続けることができる都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地のバリアフリー化、ユニバーサルデザインのまちづくり ・ J R牛久保駅周辺に広がる密集市街地の防災まちづくりの推進 ・ 中心市街地に近接したまちなか居住及び都市機能誘導施設の誘導促進
④山並みや田園風景、海や川を守り、都市の個性が輝き、地球環境にもやさしい都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街化調整区域に広がる田園と豊川の河川空間の環境保全 ・ 市街地内を流れる佐奈川の環境や水辺空間の活用
⑤多様な担い手が支え、連携・協働する安定した都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との協働及び連携による拠点地区の活性化 ・ 地域が主体となったJ R牛久保駅周辺のまちづくりの取組支援

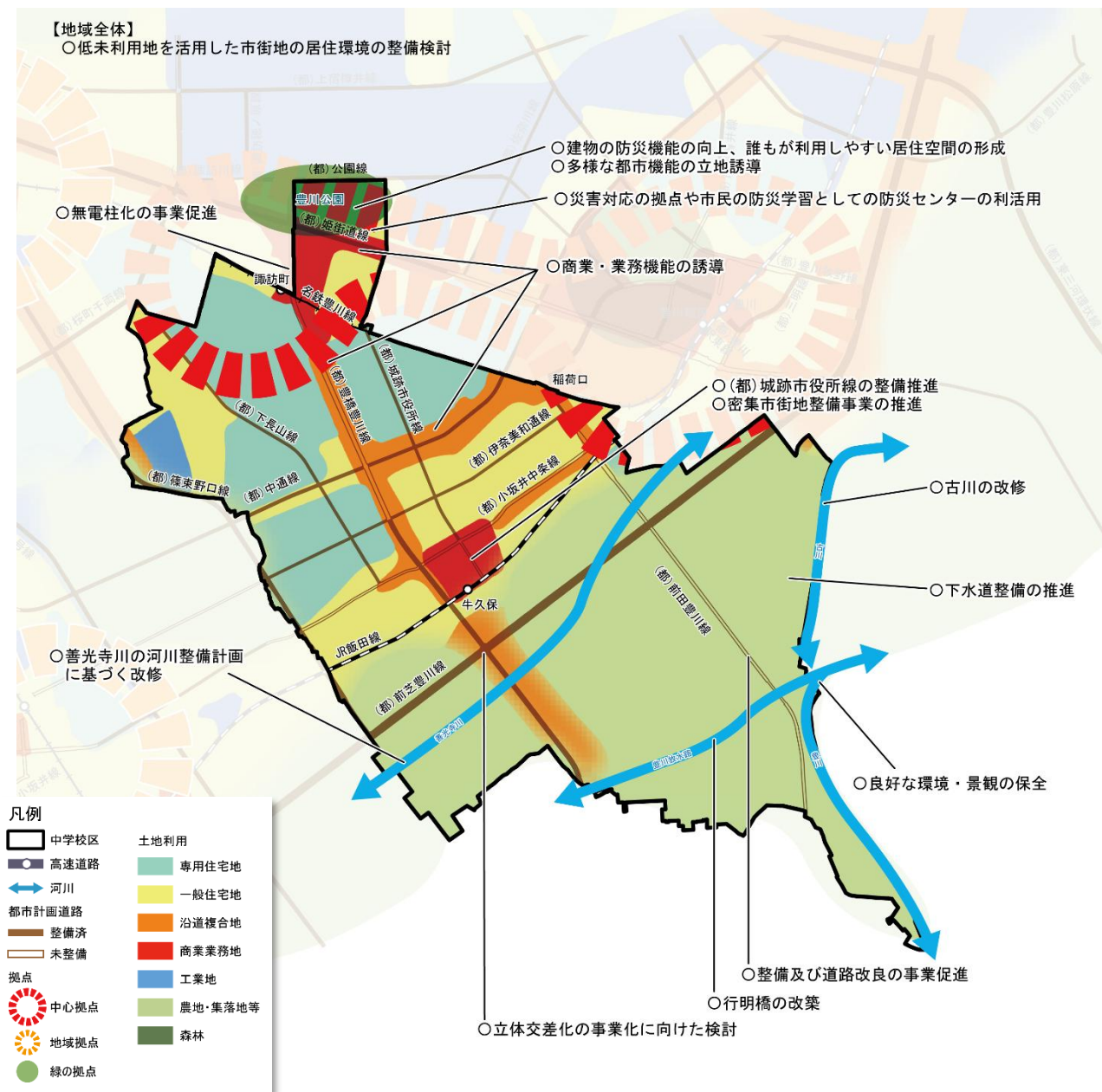
(5)地域のまちづくりの目標

- ①文化・交流、商業業務機能の集積を生かした、中心拠点の一翼を担うまちづくり
- ②防災機能の強化などによる安全で安心なJ R牛久保駅周辺のまちづくり

(6)地域のまちづくりの方針・施策

項目	方針・施策	目標
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ■(都)豊橋豊川線、(都)中通線、(都)姫街道線を基軸に、沿道に商業及び業務機能の誘導を図ります。 	①
	<ul style="list-style-type: none"> ■諏訪地区からなる中心拠点では、居住機能の集積を高めるとともに、広域からの利用が見込まれる医療、福祉、文化、商業、業務などの都市機能が複合的に立地する土地利用の誘導を図ります。 	①
都市施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ■地域間ネットワークを構成する都市計画道路の整備に向け、関係機関に働きかけます。 <ul style="list-style-type: none"> ・(都)前田豊川線の整備及び道路改良の事業促進 ・(都)前芝豊川線(国道151号)と(都)豊橋豊川線との立体交差化の事業化に向けた検討 ・(都)豊橋豊川線の無電柱化の事業促進 	①
	<ul style="list-style-type: none"> ■行明橋の改築により歩行者等への交通安全の確保及び交通ネットワークの強化を図ります。 	①
	<ul style="list-style-type: none"> ■豊川公園について、一層のにぎわいを創出するためイベント等のソフト事業を検討します。 	①
	<ul style="list-style-type: none"> ■豊川市下水道基本計画に基づき、下水道整備を推進します。 	①
	<ul style="list-style-type: none"> ■JR牛久保駅へのアクセス性を高めるため、(都)城跡市役所線の整備を進めます。 	②
	<ul style="list-style-type: none"> ■分散している窓口機能(支所機能を除く)を豊川市本庁舎等整備事業により集約します。 	①
市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ■JR牛久保駅周辺については、防災性の向上に向けた密集市街地整備事業を推進します。 	②
	<ul style="list-style-type: none"> ■低未利用地を活用した市街地の居住環境の整備を検討します。 	①
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ■豊川、豊川放水路の良好な環境保全を図ります。 	②
都市防災	<ul style="list-style-type: none"> ■諏訪地区における建物の防災機能を高めるとともに、誰もが利用しやすい居住空間を形成します。 	①
	<ul style="list-style-type: none"> ■災害対応の拠点や市民の防災学習の場として、防災センターの利活用を図ります。 	①
	<ul style="list-style-type: none"> ■災害時の活動拠点として、新本庁舎は防災センターとの動線を意識した配置とし、災害発生時にも業務を円滑に継続できる造りとします。 	①
	<ul style="list-style-type: none"> ■古川の改修を関係機関に働きかけます。 	②
	<ul style="list-style-type: none"> ■善光寺川の河川整備計画に基づく改修について関係機関に働きかけ、協力します。 	②

(7)地域のまちづくり方針図



(8)市民協働で目指す取組

- JR牛久保駅周辺においては、地域住民により災害に強いまちづくりに向けた取組を推進します。
- 佐奈川の親水空間としての環境整備及び景観の維持、保全を図ります。

牛久保安心・安全なまちづくり協議会の活動



序章 計画の前提

第1章 都市づくり上の課題整理

第2章 全体構想

第3章 地域別構想

第4章 計画の実現に向けて

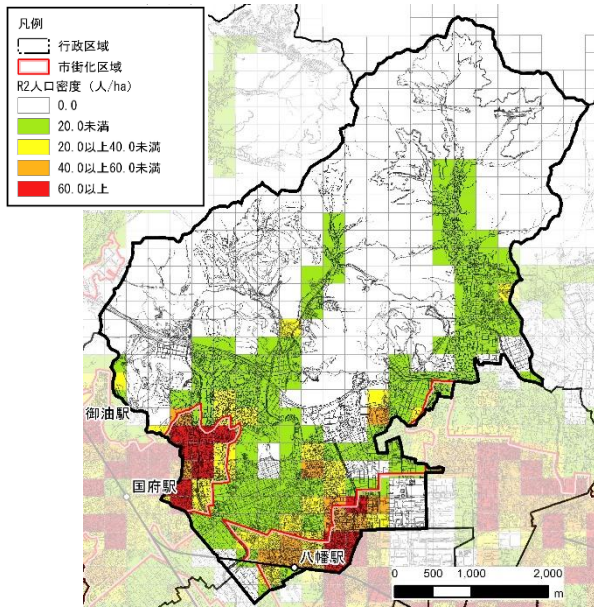
中部地域

(1) 地域の現状

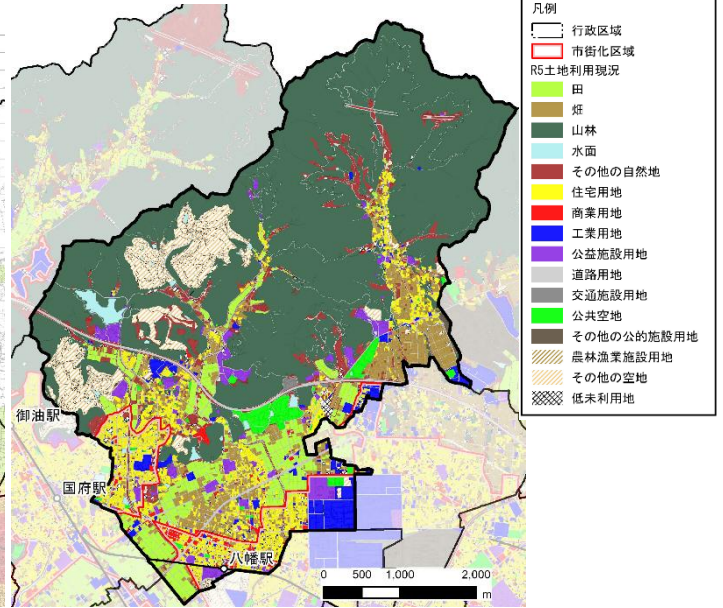
- 市街化区域の人口密度は鉄道沿線、名鉄国府駅東側で概ね 40 人/ha 以上となっています。一方、周辺部では 40 人/ha に満たない地域があります。
- (都)姫街道線沿道に商業用地が分布しており、その周辺は住宅用地が広がっています。地域東南部には穂ノ原工業団地が整備され、東名高速道路の南側にも工業用地が分布しています。地域内は住宅用地が広く分布しています。

中部地域		平成27年	令和2年	令和7年	市全体からみた中部地域の割合 (R7)
地域全体	面積(ha)	2,537.5	2,537.5	2,537.5	15.8%
	市街化区域面積(ha)	243.3	243.3	243.3	6.9%
	人口(人)	16,573	17,260	17,454	9.4%

図表 ゾーン別人口密度



図表 土地利用現況図

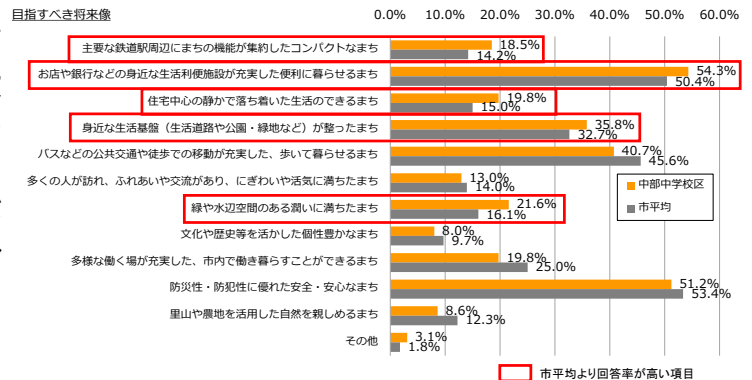


(資料: 令和2年国勢調査)

(資料: 令和5年都市計画基礎調査)

(2) 地域住民のニーズ

- 目指すべき将来像について、「お店や銀行などの身近な生活利便施設が充実した便利に暮らせるまち」の回答率が最も高く 50%を超えています。また、市平均よりも回答率が高い項目は、「お店や銀行などの身近な生活利便施設が充実した便利に暮らせるまち」などが挙げられます。



(3)地域特性と都市構造上の位置づけ

- 名鉄八幡駅周辺地区は市民病院や商業機能などが立地する地域拠点として位置づけられています。
- 本市北部中央に広がる丘陵地で構成される自然環境ゾーンと市街地との接点となる地域です。
- 赤塚山公園及びその周辺、三河国分尼寺跡史跡公園は緑の拠点として位置づけています。

(4)都市づくりの目標に対する地域の役割と課題

都市づくりの目標	地域の役割と課題
①生活圏ごとに様々な機能が使いやすく配置され、歩いて暮らしやすく、住みたいと思える都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・中核的な医療施設である市民病院の立地を生かした地域拠点としての諸機能の充実 ・名鉄八幡駅周辺地区の基盤整備と地域拠点としての魅力ある歩行者空間の充実
②多様な産業が集積、連携し、歴史・文化を生かした多彩な交流が育まれる魅力ある都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄八幡駅周辺地区における商業、文化、交流、福祉などの多様な機能集積によるにぎわいの創出 ・穂ノ原工業団地の産業機能の充実
③市民がいつまでも安全で安心して、暮らし続けることができる都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と調和した、質の高い居住環境の整備 ・市民病院を中心とした本市の医療拠点としての充実
④山並みや田園風景、海や川を守り、都市の個性が輝き、地球環境にもやさしい都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・観音山一帯の保全と自然的レクリエーション空間としての活用 ・赤塚山公園、スポーツ公園、三河国分尼寺跡史跡公園、豊川海軍工廠平和公園などの公園や歴史文化資源の整備とこれらの集積を生かした交流とにぎわいの創出
⑤多様な担い手が支え、連携・協働する安定した都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄八幡駅周辺地区の市民病院と連携した医療・保健の拠点形成や多様な機能集積による雇用機会の創出 ・計画的な住宅地における地域住民と連携した環境形成

(5)地域のまちづくりの目標

- ①名鉄八幡駅周辺地区における多様な都市機能の集積と質の高い市街地環境の創出を目指すまちづくり
- ②公園や歴史文化資源、市民の憩いの場となるレジャー施設などの機能強化とネットワークによる広域交流とにぎわいを創出するまちづくり

(6)地域のまちづくりの方針・施策

項目	方針・施策	目標
土地利用	■名鉄八幡駅周辺地区では、医療、福祉、公共施設、商業、住宅などの多様な機能を集約した複合的な地域拠点として、交流人口の拡大や雇用の創出を図ります。	①
	■地区計画制度の活用などを通じて、商業施設と市民病院や住宅地との調和を図ります。	①
	■無秩序な市街地の拡大を抑制し、自然環境及び特色ある景観資源の保全を図るとともに、自然とのふれあいや憩いの場としての活用を図ります。	②
	■土地利用や都市基盤の整備状況を踏まえ、災害リスクが低く居住者の受け皿として可能性が見込まれる拠点周辺で新たに必要となる住宅地の形成を検討します。	①
都市施設整備	■名鉄八幡駅周辺地区の活性化に伴う、交通量増加による渋滞や事故の抑制を図ります。	①
	■豊川市下水道基本計画に基づき、下水道整備を推進します。	①
	■広域幹線道路の整備に向け、関係機関に働きかけます。 ・(都)東三河環状線の4車線化の事業促進 ・(主)豊川新城線の事業促進 ・(都)姫街道線の4車線化・無電柱化の事業促進	②
	■(都)上宿樽井線については、道路改良及び交差点改良の早期完了を図ります。	②
	■赤塚山公園は、利用者の増加やニーズの変化に合わせた施設更新や民間活力導入によるソフト事業の充実を図ることにより、施設の魅力を高め、さらなるにぎわいを創出します。	②
	■スポーツ公園では、健康づくりやスポーツ・レクリエーションの場としての利用促進を図ります。	②
市街地整備	■既存の住宅地の環境保全を図るとともに、豊川西部土地区画整理事業を推進し、安全で快適な居住空間を確保し、良好な環境の市街地形成を図ります。	①②
	■八幡地区の第一種低層住居専用地域については、地域の理解、協力を得ながら、まちづくりのルールづくりや道路などの基盤整備について推進します。	①
自然環境	■佐奈川、豊川公園、桜トンネル、(都)桜町千両線から赤塚山公園へつながる桜を中心とした緑のネットワークを形成します。	②
	■ごみ処理施設の適正な維持管理の継続に努めます。	②
	■豊川市文化財保存活用地域計画に基づき、三河国分尼寺跡史跡公園や財賀寺などの文化財の保存・活用、歴史的な景観を含めた周辺環境の保全に努めます。	②
	■豊川海軍工廠跡地の一部について、その歴史を後世に伝えるため、残存遺構の保存を図ります。	②
都市防災	■諏訪下区域における砂防事業（急傾斜地崩壊対策）の推進を関係機関に働きかけます。	①
	■白川、西古瀬川の改修を関係機関に働きかけます。	②

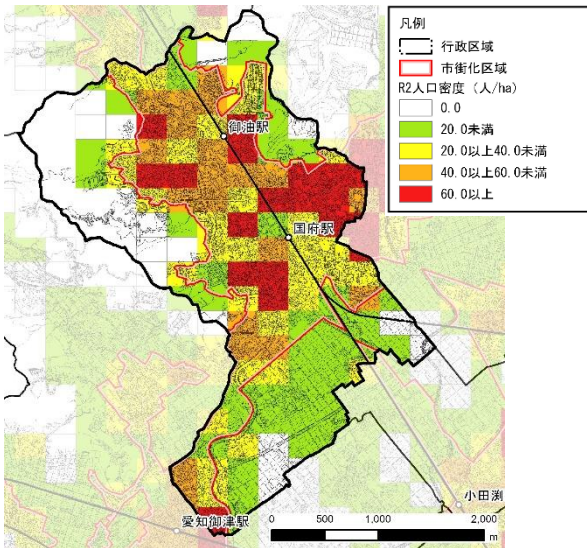
西部地域

(1) 地域の現状

- 市街化区域の人口密度は、鉄道沿線では概ね 40 人/ha 以上となっていますが、周辺部では 40 人/ha に満たない地域があります。
- 名鉄名古屋本線に並行する(都)国道1号線沿道に商業用地が分布しており、その周辺は住宅用地が広がっています。地域内には高校や小中学校、寺社などの公益施設用地のほか、小規模な工業用地も分布しています。

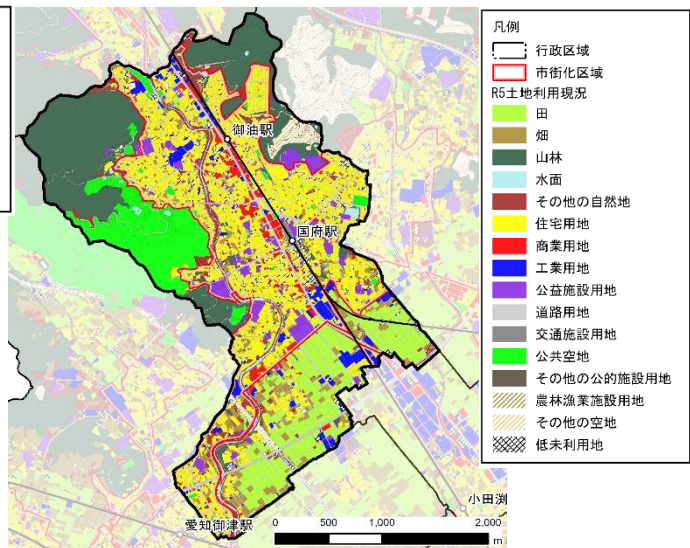
西部地域		平成27年	令和2年	令和7年	市全体からみた西部地域の割合 (R7)
地域全体	面積(ha)	844.9	844.9	844.9	5.3%
	市街化区域面積(ha)	427.0	427.0	427.0	12.0%
	人口(人)	21,601	21,974	22,289	12.0%

図表 ゾーン別人口密度



(資料: 令和2年国勢調査)

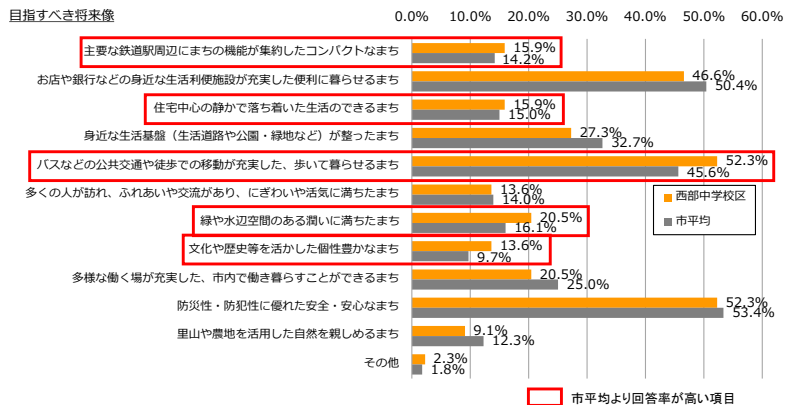
図表 土地利用現況図



(資料: 令和5年都市計画基礎調査)

(2) 地域住民のニーズ

- 目指すべき将来像について、「バスなどの公共交通や徒歩での移動が充実した、歩いて暮らせるまち」などが最も回答率が高く、次いで「防災性・防犯性に優れた安全・安心なまち」が50%を超えています。市平均よりも回答率が高い項目は、「緑や水辺空間の潤いに満ちたまち」などが挙げられます。



(3)地域特性と都市構造上の位置づけ

- 広域からの玄関口である名鉄国府駅は市内で最も乗降客の多い駅で、駅周辺は地域拠点として位置づけています。
- (都)国道1号線、(都)東三河環状線などの広域幹線道路に加え、(都)名豊道路が通過し、豊川為当インターチェンジが設置されており、広域交通の結節点となっています。
- 地域西部の東三河ふるさと公園は広域的な緑の拠点として位置づけています。
- 東海道御油宿や御油のマツ並木など、歴史や文化が引き継がれています。

(4)都市づくりの目標に対する地域の役割と課題

都市づくりの目標	地域の役割と課題
①生活圏ごとに様々な機能が使いやすく配置され、歩いて暮らしやすく、住みたいと思える都市づくり	・ 名鉄国府駅周辺の交通の要衝としてのポテンシャルを生かした地域拠点としての基盤整備と機能の充実
②多様な産業が集積、連携し、歴史・文化を生かした多彩な交流が育まれる魅力ある都市づくり	・ 東海道五十三次の歴史的環境を伝える御油宿や御油のマツ並木、国府の市などの歴史文化資源を活用した交流とにぎわいの創出 ・ 広域交通の結節点としてのポテンシャルを活用した機能誘導や人々の交流の活性化
③市民がいつまでも安全で安心して、暮らし続けることができる都市づくり	・ 土地区画整理事業による新市街地の整備促進 ・ 既成市街地の居住環境の充実
④山並みや田園風景、海や川を守り、都市の個性が輝き、地球環境にもやさしい都市づくり	・ 東三河ふるさと公園を核として、一体的な周辺の自然環境の保全と活用 ・ 市街地を流れる音羽川の環境や水辺空間の活用
⑤多様な担い手が支え、連携・協働する安定した都市づくり	・ 地域や住民と連携した、歴史を生かしたまちづくりの推進 ・ 計画的な住宅地や既成市街地の環境改善における地域住民と連携したまちづくりの推進

(5)地域のまちづくりの目標

- ① 広域公園を中心とする自然・レクリエーション環境や、歴史を伝える資源を生かした交流とにぎわいを創出するまちづくり
- ② 交通の要衝、広域交通ネットワークなどのポテンシャルを活用した名鉄国府駅周辺の地域拠点としてのまちづくり

(6)地域のまちづくりの方針・施策

項目	方針・施策	目標
土地利用	■広域的な幹線道路である(都)名豊道路豊川為当インターチェンジなどを中心にした新たな産業集積を確保し、地域活性化を図ります。	②
	■(都)東三河環状線沿道に隣接する白鳥工業団地地区の整備を促進します。	②
	■国府駅周辺の土地の高度利用を促進するため、指定容積率の見直しや緩和などを検討します。	①
都市施設整備	■東三河ふるさと公園の整備を促進し、郷土の自然環境を生かした景観の確保と憩い、交流の場の整備を愛知県に働きかけます。	①
	■広域幹線道路の整備に向け、関係機関に働きかけます。 ・(都)名豊道路の4車線化の事業促進 ・(都)東三河環状線の4車線化の事業促進	②
	■地域間ネットワークを構成する道路の事業促進に向け、地域及び事業主体などの関係機関に働きかけます。 ・(都)国府赤根線、(都)金野御油線 ・県道前芝国府停車場線の整備及び道路改良	②
	■通学路の安全確保などのため、(都)大池線の整備を推進します。	②
	■豊川市下水道基本計画に基づき、下水道整備を推進します。	②
市街地整備	■地域交流の場として御油松並木公園の利活用を図ります。	①
	■木造家屋の密集する地区については、地域と連携した防災性向上に向けた取組を検討します。	②
	■名鉄国府駅周辺において、アクセス道路の充実を図るとともに、商業地を配置し、本市の西の玄関口としてふさわしいにぎわいある地域拠点を形成します。	②
	■既存の住宅地の環境保全を図るとともに、豊川西部土地区画整理事業を推進し、安全で快適な居住空間を確保し、良好な環境の市街地形成を図ります。	②
	■上宿地区、国府岡本地区、国府高畑地区、為当地区の第一種低層住居専用地域については、地域の理解、協力を得ながら、まちづくりのルールづくりや道路などの基盤整備について推進します。	②
自然環境	■古木の樹勢回復作業、植樹などを行い、御油のマツ並木の保存区域を順次天然記念物指定地に追加し、公有地化を図り、御油のマツ並木の景観維持と生育環境保全を図ります。	①
	■音羽川については、桜並木の保全や親水空間の利活用を関係機関に働きかけます。	①
	■県道長沢国府線の御油のマツ並木部分については、御油宿の歴史と調和した風格ある道路環境の保全及び形成を図ります。	①
都市防災	■音羽川の改修を関係機関に働きかけます。	②
	■老朽建物の改善により、防災性の向上を図り、安全で快適な居住空間を確保します。	②

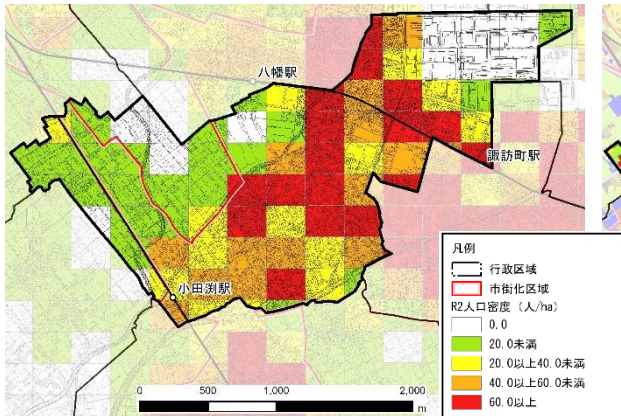
代田地域

(1) 地域の現状

- 市街化区域の人口密度は、鉄道沿線では概ね 60 人/ha 以上となっている一方で、西側周辺部では 20 人/ha 未満の地域もあります。
- (都) 姫街道線沿道と(都) 篠束野口線沿道に商業用地が分布しており、その周辺は住宅用地が広がっています。地域内には文化会館や高校をはじめ公益施設用地が分布し、穂ノ原工業団地や小田淵町地区には工業用地が集積しています。

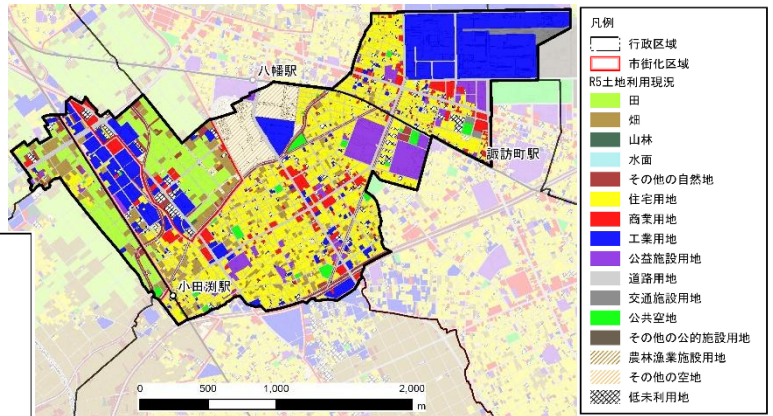
代田地域		平成27年	令和2年	令和7年	市全体からみた代田地域の割合(R7)
地域全体	面積(ha)	453.4	453.4	453.4	2.8%
	市街化区域面積(ha)	353.9	353.9	353.9	10.0%
	人口(人)	14,177	14,604	14,776	8.0%

図表 ゾーン別人口密度



(資料: 令和2年国勢調査)

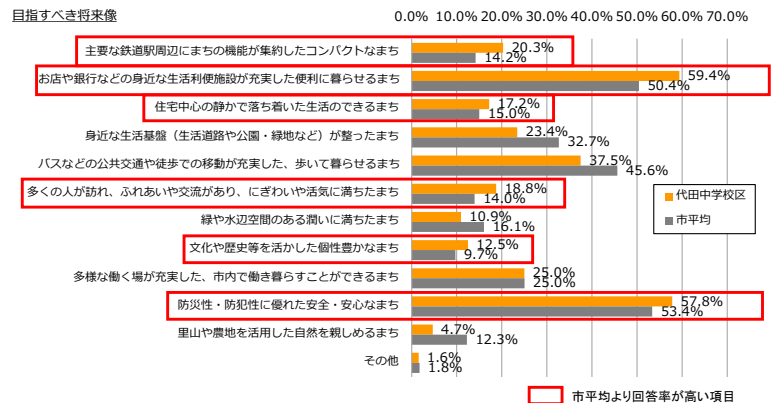
図表 土地利用現況図



(資料: 令和5年都市計画基礎調査)

(2) 地域住民のニーズ

- 目指すべき将来像について、「お店や銀行などの身近な生活利便施設が充実した便利に暮らせるまち」、次いで「防災性・防犯性に優れた安全・安心なまち」が50%を超えています。そのほかに市平均よりも回答率が高い項目は、「主要な鉄道駅周辺にまちの機能が集約したコンパクトなまち」などが挙げられます。



(3)地域特性と都市構造上の位置づけ

- 地域東部の名鉄諏訪町駅周辺は、南部地域とまたがる中心拠点の一角として位置づけられます。
- 中央部は中部地域とまたがる名鉄八幡駅周辺地区の地域拠点の一部を形成します。
- 旧豊川海軍工廠跡に整備された穂ノ原工業団地には大規模工場が集積しています。

(4)都市づくりの目標に対する地域の役割と課題

都市づくりの目標	地域の役割と課題
①生活圏ごとに様々な機能が使いやすく配置され、歩いて暮らしやすく、住みたいと思える都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・中心拠点の一翼を担う諏訪地区の商業や業務機能の充実 ・名鉄八幡駅周辺地区の基盤整備と安心して快適な歩行者空間の充実
②多様な産業が集積、連携し、歴史・文化を生かした多彩な交流が育まれる魅力ある都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄八幡駅周辺地区における医療、福祉、公共施設、商業、住宅などの多様な機能集積によるにぎわいの創出 ・穂ノ原工業団地、(都)国道1号線沿道の工業集積地などにおける周辺の住宅地との環境の調和
③市民がいつまでも安全で安心して、暮らし続けることができる都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地に近接したまちなか居住の促進 ・名鉄八幡駅周辺地区の活性化に伴う交通の円滑化対策の強化
④山並みや田園風景、海や川を守り、都市の個性が輝き、地球環境にもやさしい都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・佐奈川、白川などの河川は、市街地内の貴重な親水空間として保全及び活用
⑤多様な担い手が支え、連携・協働する安定した都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街や地域住民と連携したまちづくり ・地域や事業者などとの協働による名鉄八幡駅周辺地区の土地利用の検討

(5)地域のまちづくりの目標

- ①プリオビルを拠点に地域と連携した、中心市街地の魅力と活力を生み出すまちづくり
- ②医療、福祉、公共施設、商業、住宅などの多機能の集積する名鉄八幡駅周辺地区の地域拠点としての魅力づくり

(6)地域のまちづくりの方針・施策

項目	方針・施策	目標
土地利用	■中心市街地の遊休不動産などを活用し、エリアの価値や経済活動の向上を図ります。	①
	■地区計画制度の活用などを通じて、商業施設と市民病院や住宅地との調和を図ります。	②
	■名鉄八幡駅周辺地区では、医療、福祉、公共施設、商業、住宅などの多様な機能を集約した複合的な地域拠点として、交流人口の拡大や雇用の創出を図ります。	②
都市施設整備	■名鉄諏訪町駅を生かした交通結節点としての機能強化を図ります。	①
	■名鉄八幡駅周辺地区において、総合保健センター及び新たな文化施設の整備推進並びに公共駐車場の整備に向けた検討をします。	②
	■地域間ネットワークを構成する道路の事業促進に向け、関係機関に働きかけます。 ・(都)姫街道線の無電柱化の事業促進 ・県道白鳥豊橋線の歩道整備	②
	■名鉄八幡駅周辺地区の活性化に伴う、交通量増加による渋滞や事故の抑制を図ります。	②
市街地整備	■中心市街地の活性化のために諏訪公園の利活用を図ります。	①
	■空き店舗や公共空間の利用促進、空き家見学ツアーなどを通じて、商業と業務機能の誘導を図り、中心拠点の経済活力の向上を推進します。	①
	■名鉄諏訪町駅周辺の中心拠点内の道路環境について、安全で快適な整備を推進します。	①②
自然環境	■佐奈川については、桜並木景観の保全及び親水空間の利活用を図ります。	②
都市防災	■中心拠点内の無電柱化事業の延伸などを通じて、優良な都市景観の形成を図るほか、防災機能の向上を促進します。	①
	■西古瀬川の護岸などの適正な維持管理を関係機関に働きかけます。	②
	■佐奈川の河川整備計画に基づく改修について関係機関に働きかけ、協力します。	②

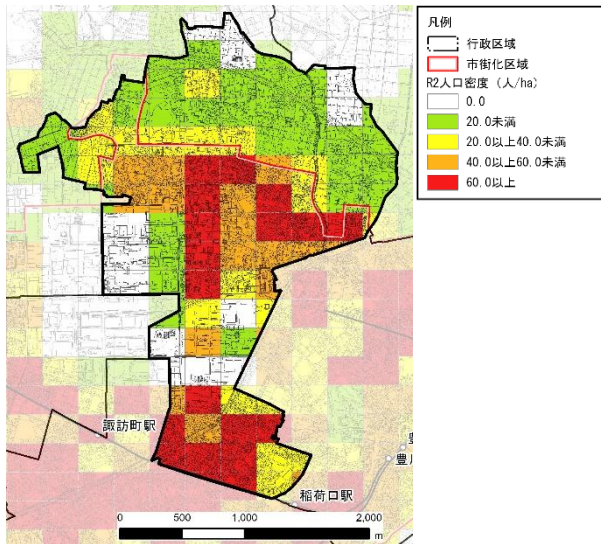
金屋地域

(1)地域の現状

- 市街化区域の人口密度は、概ね（都）姫街道沿道地域は40人/haと高い一方で、北部では20人/ha未滿の地域がみられます。
- 中央部に工業団地及び自衛隊駐屯地があり、その南北に住宅用地が広がっています。地域南東端の名鉄稲荷口駅に近接した地域や北側の（都）亀穴線沿道には商業用地の集積もみられます。

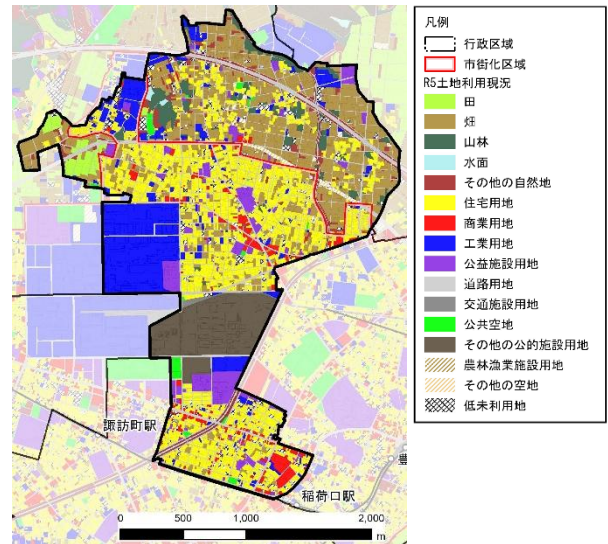
金屋地域		平成27年	令和2年	令和7年	市全体からみた 金屋地域の割合(R7)
地域 全体	面積(ha)	562.0	562.0	562.0	3.5%
	市街化区域面積(ha)	342.7	342.7	342.7	9.7%
	人口(人)	17,354	17,358	17,032	9.2%

図表 ゾーン別人口密度



(資料: 令和2年国勢調査)

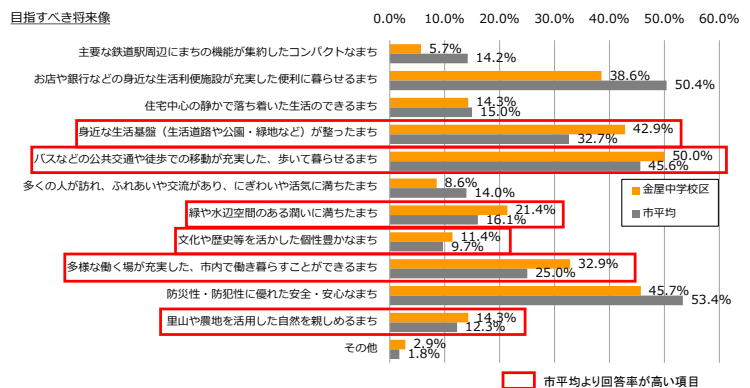
図表 土地利用現況図



(資料: 令和5年都市計画基礎調査)

(2)地域住民のニーズ

- 目指すべき将来像について、「バスなどの公共交通や徒歩での移動が充実した、歩いて暮らせるまち」が50%と高くなっています。そのほかに市平均よりも回答率が高い項目は、「身近な生活基盤（生活道路や公園・緑地など）が整ったまち」、「多様な働く場が充実した、市内で働き暮らすことができるまち」などが挙げられます。



(3)地域特性と都市構造上の位置づけ

- 地域南部の(都)姫街道線沿道の中央通地区はJR豊川駅周辺と名鉄諏訪町駅周辺を結び、一体的な中心市街地を構成しています。
- 地域中央部には穂ノ原工業団地と、これに隣接する陸上自衛隊駐屯地が立地しています。
- 佐奈川沿いは桜並木の散策路が設けられ、中心市街地における環境軸を形成しています。

(4)都市づくりの目標に対する地域の役割と課題

都市づくりの目標	地域の役割と課題
①生活圏ごとに様々な機能が使いやすく配置され、歩いて暮らしやすく、住みたいと思える都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地を構成する(都)姫街道線沿道の中央通地区への商業や業務機能の誘導 ・住民の足となる路線バスやコミュニティバスの維持
②多様な産業が集積、連携し、歴史・文化を生かした多彩な交流が育まれる魅力ある都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・広域幹線道路(都)東三河環状線の整備及び関連する道路ネットワークの整備による産業立地ポテンシャルの向上 ・諏訪の桜トンネル、佐奈川堤の桜並木の開花時期に開催される桜祭りなどのイベントを生かした交流の活性化
③市民がいつまでも安全で安心して、暮らし続けることができる都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・北部の住宅地は、隣接する工業系の土地利用との調和のとれた居住環境の充実
④山並みや田園風景、海や川を守り、都市の個性が輝き、地球環境にもやさしい都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域北部の田園環境の保全、耕作放棄地の活用や農業体験などによる都市と農村の交流の活性化 ・市街地内を貫流する河川の親水空間の保全及び活用や、散策路の整備などによる機能充実
⑤多様な担い手が支え、連携・協働する安定した都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した佐奈川周辺の環境保全と活用

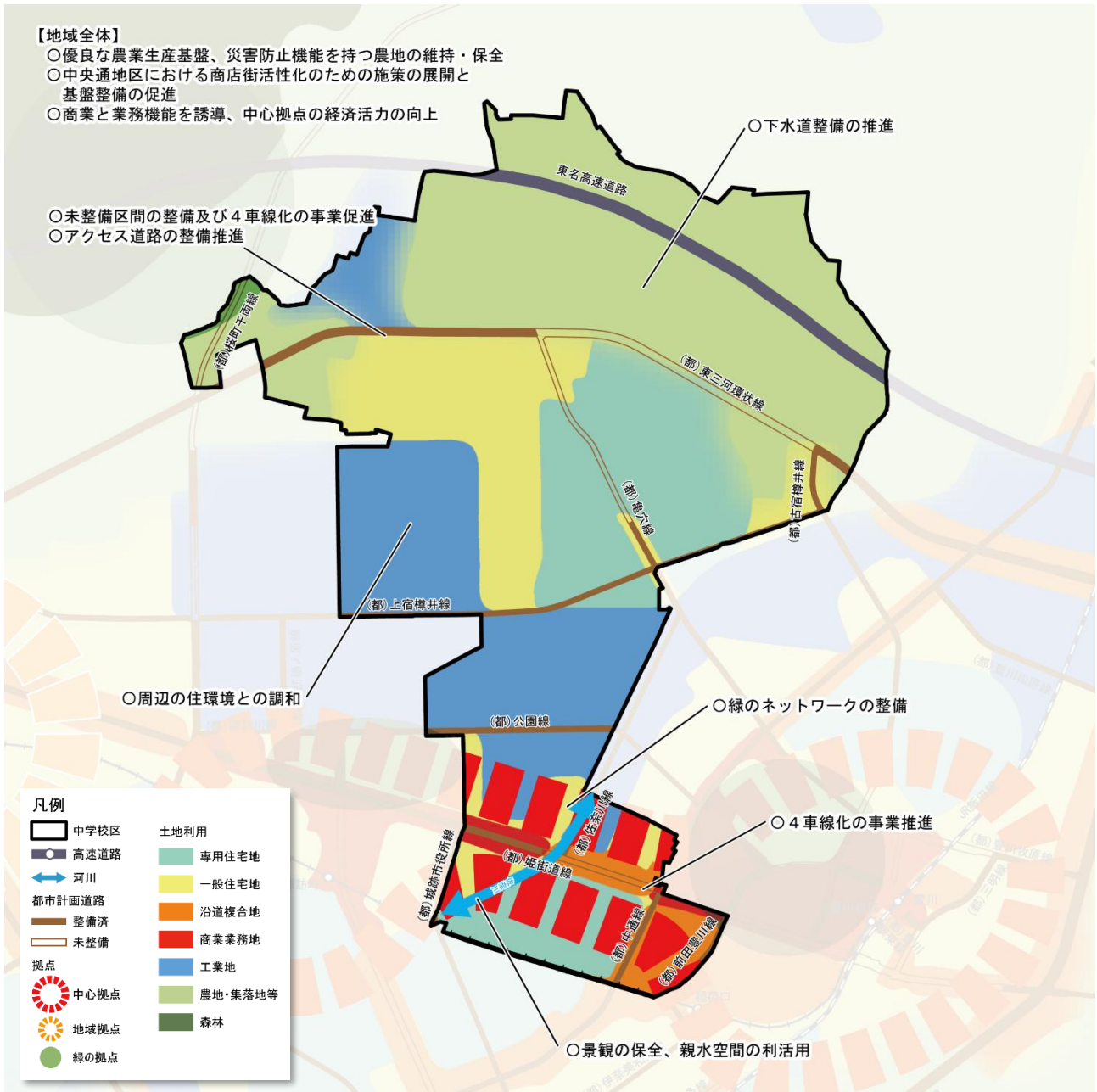
(5)地域のまちづくりの目標

- ①JR豊川駅周辺と名鉄諏訪町駅周辺を結びつける中央通地区の魅力を創出するまちづくり
- ②環境軸を構成する佐奈川の水辺環境や桜並木を活用した潤いあるまちづくり

(6)地域のまちづくりの方針・施策

項目	方針・施策	目標
土地利用	■中央通地区での商店街活性化のための施策の展開と基盤整備を促進します。	①
	■市の中央部に位置する穂ノ原工業団地では、周辺の住環境との調和を図ります。	①
	■市街化調整区域では、優良な農業生産基盤、災害防止機能を持つ農地の維持及び保全を図ります。	②
都市施設整備	■広域幹線道路の整備に向け、関係機関に働きかけます。 ・(都)東三河環状線(大崎・三蔵子工区)の整備及び4車線化の事業促進 ・(都)姫街道線の4車線化の事業促進	①
	■幹線道路へのアクセス強化を図ります。 ・(都)東三河環状線に通じるアクセス道路の整備促進	①
	■豊川市下水道基本計画に基づき、下水道整備を推進します。	①
市街地整備	■空き店舗や公共空間の利用促進を通じて、商業と業務機能の誘導を図り、中心拠点の経済活力の向上を推進します。	①②
自然環境	■佐奈川、豊川公園、桜トンネル、(都)桜町千両線を結ぶ、緑のネットワークの整備を推進します。	②
	■佐奈川については、桜並木景観の形成及び親水空間の利活用を図ります。	②

(7)地域のまちづくり方針図



(8)市民協働で目指す取組

- 佐奈川の親水空間としての環境整備及び景観の維持、保全を図ります。

佐奈川の会の活動



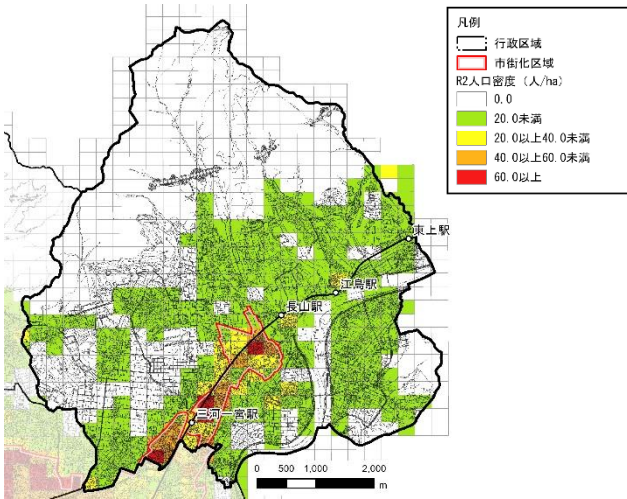
一宮地域

(1) 地域の現状

- 市街化区域の人口密度はJR三河一宮駅周辺で40人/ha以上の地域がみられる一方、周辺部では20人/ha未満の地域もみられます。
- 市街化区域内には、周辺部に専門学校やまとまった工業用地があるほかは、住宅用地となっています。

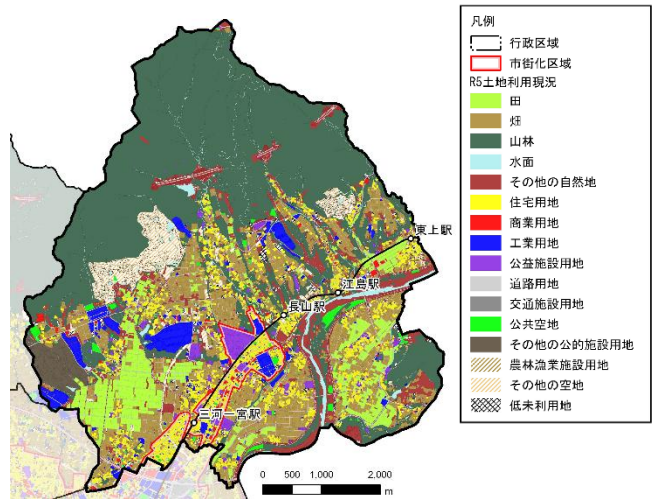
一宮地域		平成27年	令和2年	令和7年	市全体からみた一宮地域の割合(R7)
地域全体	面積(ha)	3,661.0	3,661.0	3,661.0	22.8%
	市街化区域面積(ha)	158.9	158.9	158.9	9.7%
	人口(人)	16,407	16,602	16,326	8.8%

図表 ゾーン別人口密度



(資料: 令和2年国勢調査)

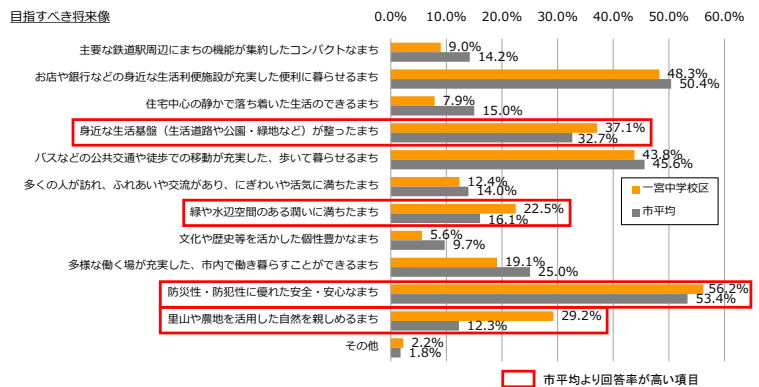
図表 土地利用現況図



(資料: 令和5年都市計画基礎調査)

(2) 地域住民のニーズ

- 目指すべき将来像について、「防災性・防犯性に優れた安全・安心なまち」が56%の回答率と高くなっています。そのほかにも市平均よりも回答率が高い項目は、「身近な生活基盤（生活道路や公園・緑地など）が整ったまち」、「里山や農地を活用した自然を親しめるまち」、「緑や水辺空間のある潤いに満ちたまち」などが挙げられます。



(3)地域特性と都市構造上の位置づけ

- 市の北東部に位置し、市街地は地域の南部、JR飯田線沿線に形成され、JR三河一宮駅周辺は地域拠点として位置づけられています。
- 地域の北部は本宮山一帯の丘陵地が広がり、東側を貫流する豊川の清流とともに本市を象徴する自然景観を構成しています。
- 地域の南端の東部地域との境には東名高速道路豊川インターチェンジが設置され、広域交通の要となっています。

(4)都市づくりの目標に対する地域の役割と課題

都市づくりの目標	地域の役割と課題
①生活圏ごとに様々な機能が使いやすく配置され、歩いて暮らしやすく、住みたいと思える都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・JR三河一宮駅周辺は地域拠点にふさわしい商業、生活サービス機能などの集積を促進 ・JR飯田線、路線バス及びコミュニティバスによる豊川中心市街地との連絡強化による利便性の確保
②多様な産業が集積、連携し、歴史・文化を生かした多彩な交流が育まれる魅力ある都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・東名高速道路豊川インターチェンジへの近接性を生かした、大木工業団地、西原足山田地区、豊川インターチェンジ周辺などへの工業機能の集積促進 ・本宮山、豊川などの豊かな自然環境を生かした、レクリエーション機能の充実、本宮の湯・ウォーキングセンターなどの既存施設の充実によるレクリエーション拠点の整備
③市民がいつまでも安全で安心して、暮らし続けることができる都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の自然環境と調和した市街地の居住環境の整備
④山並みや田園風景、海や川を守り、都市の個性が輝き、地球環境にもやさしい都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・本宮山、砥鹿神社、豊川及び三上緑地などの自然環境の保全・活用
⑤多様な担い手が支え、連携・協働する安定した都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・支所、体育、生涯学習及びコミュニティ機能の集約などをはじめとする公共施設統合・再編によるコスト削減と地域内における多世代交流の促進

(5)地域のまちづくりの目標

- ①地域の商業や生活サービスの中心となる、魅力ある地域拠点としてのまちづくり
- ②自然環境や資源を活用し、既存の機能の充実による、魅力ある自然レクリエーション拠点としてのまちづくり

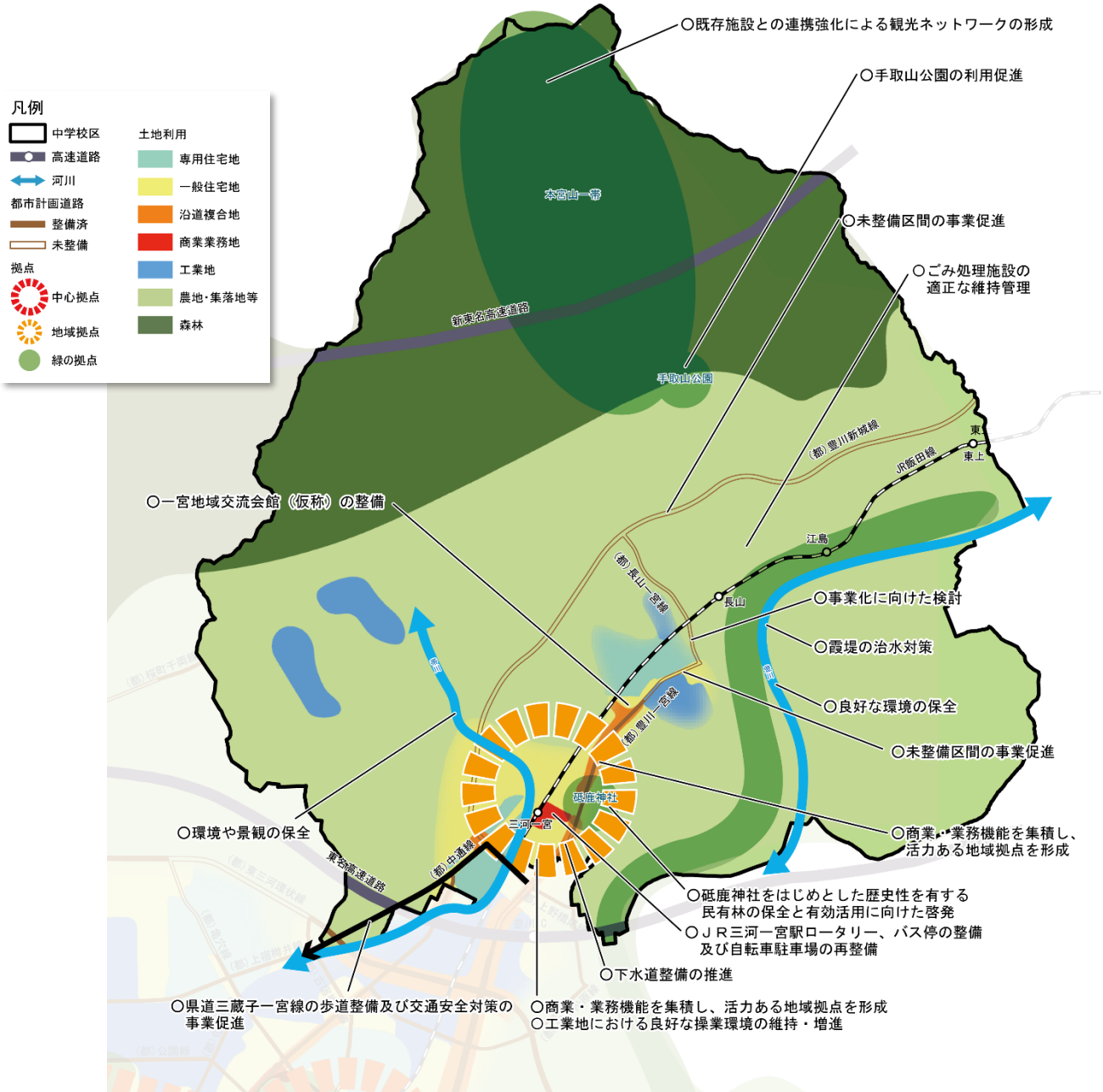
(6)地域のまちづくりの方針・施策

項目	方針・施策	目標
土地利用	■JR三河一宮駅周辺及び(都)豊川一宮線(国道151号)沿道には、住民生活に必要な商業・業務機能を集積し、活力ある地域拠点の形成を図ります。	①
	■東名高速道路豊川インターチェンジ周辺地域における工業地において、良好な操業環境の維持・増進を図ります。	②
	■(都)豊川新城線によるアクセス利便性に優れたJR三河一宮駅の西側において新たな産業集積を検討します。	②
	■土地利用や都市基盤の整備状況を踏まえ、災害リスクが低く居住者の受け皿として可能性が見込まれる拠点周辺で新たに必要となる住宅地の形成を検討します。	①
都市施設整備	■(都)豊川新城線(国道151号バイパス)の整備に向け、関係機関に働きかけます。	①
	■豊川市下水道基本計画に基づき、下水道整備を推進します。	①
	■一宮地域交流会館(仮称)の整備を進めます。	①
	■JR三河一宮駅ロータリー、バス停の整備及びこれに伴う自転車駐車場の再整備を行い、交通結節機能の強化を図ります。	①
	■(都)豊川新城線とあわせて、これにアクセスする地区幹線道路の整備を関係機関に働きかけます。 ・(都)豊川一宮線の事業促進 ・(都)長山一宮線の事業化に向けた検討 ・県道三蔵子一宮線の歩道整備及び交通安全対策の事業促進	②
	■手取山公園の利用促進に向けた取組を検討します。	②
自然環境	■砥鹿神社をはじめとした歴史性を有する民有林の保全と有効活用に向けた啓発を図ります。	②
	■県立本宮山自然公園や本宮の湯をはじめとした既存施設との連携強化を図り、観光ネットワークを形成します。	②
	■本市の市街地を縦貫する佐奈川・帯川の環境や景観の保全を関係機関に働きかけます。	②
	■本市を代表する河川である豊川については、良好な環境保全を図ります。	②
	■ごみ処理施設の適正な維持管理の継続に努めます。	②
都市防災	■森林の保全・育成のための基盤整備を促進するほか、安全な住民生活を確保するための治山対策を関係機関に働きかけます。	②
	■豊川の霞堤の治水対策及び整備促進を関係機関に働きかけます。	②

(7)地域のまちづくり方針図

【地域全体】

- 森林の保全・育成のための基盤整備促進、安全な住民生活を確保するための治山対策
- (都)豊川新城線によるアクセス利便性に優れたJR三河一宮駅の西側において新たな産業集積を検討



(8)市民協働で目指す取組

- コミュニティバス(地域路線)のルートやバス停の位置、ダイヤなどの改善の検討を進めます。
- 本宮山登山道の清掃、補修整備及び維持管理を図ります。
- 手取山公園をレクリエーションの場として利用できるよう環境整備や維持管理を図ります。
- 大和の大いちょうを地域のコミュニティ拠点として維持・保全を図ります。

手取山公園自然観察会の活動



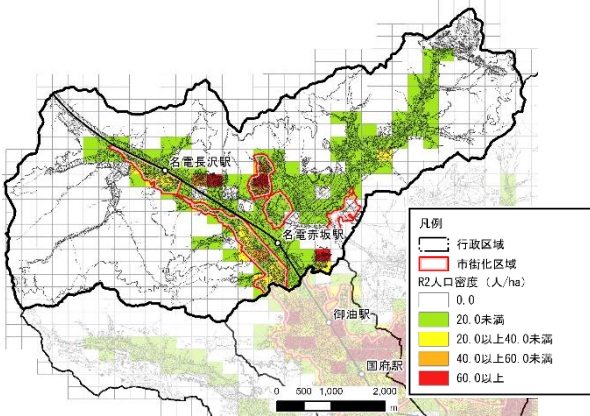
音羽地域

(1) 地域の現状

- 市街化区域の人口密度は名鉄名古屋本線北側で 60 人/ha 以上の地域があるものの、(都)国道 1 号線沿線では概ね 20 人/ha 未満となっています。
- (都)国道 1 号線沿道に商業用地が分布していますが、周辺は住宅用地となっています。東名高速道路の北側には萩工業団地などのまとまった工業用地が整備されています。

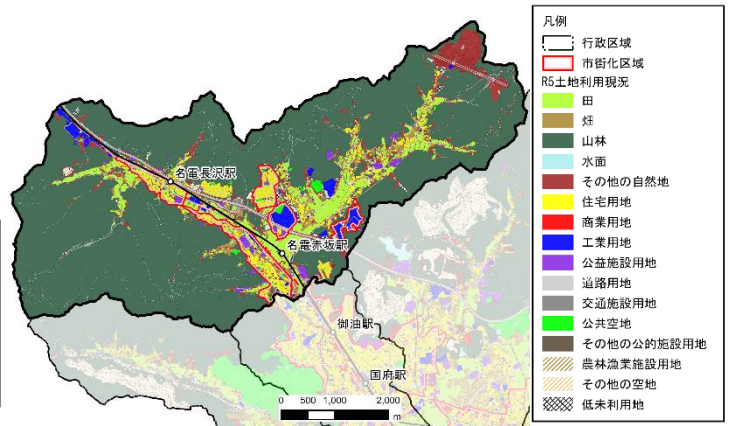
音羽地域		平成27年	令和2年	令和7年	市全体からみた音羽地域の割合 (R7)
地域全体	面積(ha)	2,965.0	2,965.0	2,965.0	18.4%
	市街化区域面積(ha)	150.4	150.4	150.4	5.1%
	人口(人)	8,992	8,815	8,141	4.4%

図表 ゾーン別人口密度



(資料: 令和2年国勢調査)

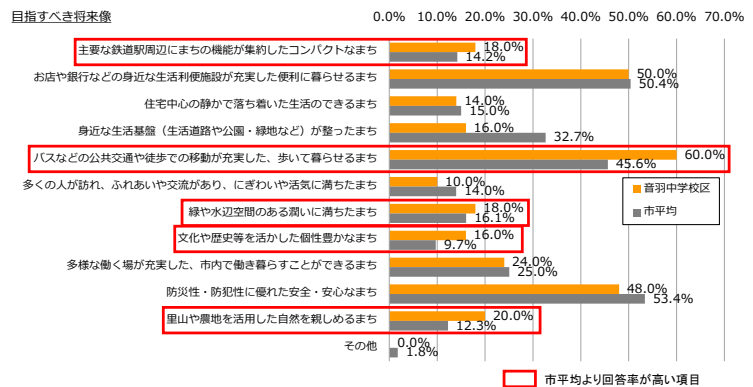
図表 土地利用現況図



(資料: 令和5年都市計画基礎調査)

(2) 地域住民のニーズ

- 目指すべき将来像について、「バスなどの公共交通や徒歩での移動が充実した、歩いて暮らせるまち」、「お店や銀行などの身近な生活利便施設が充実した便利に暮らせるまち」が回答率 50%以上と高くなっています。そのほかに市平均よりも回答率が高い項目は、「里山や農地を活用した自然を親しめるまち」などが挙げられます。



(3)地域特性と都市構造上の位置づけ

- 市の西北部に位置し、市街地は名鉄名古屋本線沿線に形成され、名鉄名電赤坂駅周辺は地域拠点として位置づけられています。
- 市街地を取り囲むように丘陵地が広がり、地域西部の宮路山一帯は紅葉の名所としても有名で、緑の拠点として位置づけています。
- 東名高速道路音羽蒲郡インターチェンジが設置され、広域交通結節点としてのポテンシャルを生かした工業集積が進展しています。

(4)都市づくりの目標に対する地域の役割と課題

都市づくりの目標	地域の役割と課題
①生活圏ごとに様々な機能が使いやすく配置され、歩いて暮らしやすく、住みたいと思える都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄名電赤坂駅周辺は地域拠点にふさわしい商業、生活サービス機能などの集積を促進 ・名鉄名電赤坂駅の交通結節機能の整備と歩行者空間の充実
②多様な産業が集積、連携し、歴史・文化を生かした多彩な交流が育まれる魅力ある都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・東名高速道路音羽蒲郡インターチェンジへの近接性を生かした赤坂地区、萩工業団地への工業機能の集積促進 ・宮路山の豊かな自然環境を生かしたレクリエーション機能の充実
③市民がいつまでも安全で安心して、暮らし続けることができる都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の自然環境と調和した市街地の居住環境の整備
④山並みや田園風景、海や川を守り、都市の個性が輝き、地球環境にもやさしい都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・宮路山などの自然資源、東海道赤坂宿の歴史文化資源などの活用
⑤多様な担い手が支え、連携・協働する安定した都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地区計画区域における地域住民と連携した居住環境の保全と充実 ・公共施設の多機能化及び統合によるコミュニティ維持

(5)地域のまちづくりの目標

- ①自然環境や歴史文化資源を活用しネットワーク化を図るとともに、既存の機能の充実による、交流とにぎわいを創出するまちづくり
- ②地域の商業や生活サービスの中心となる、魅力ある地域拠点としてのまちづくり

(6)地域のまちづくりの方針・施策

項目	方針・施策	目標
土地利用	■東名高速道路音羽蒲郡インターチェンジ周辺地域における工業地において、良好な操業環境の維持・増進を図ります。	①
	■名鉄名電赤坂駅と音羽支所間を結ぶ経路を中心として、住民生活に必要な商業や業務機能の誘導を図り、地域拠点の形成に努めます。	②
	■まとまりのある良好な住宅地が形成されているサンヒル赤坂地区では、現況の低層戸建住宅などを主体とした現在の土地利用を基本としつつ、現在の地区計画制度の維持により、ゆとりある良好な居住環境の維持を図ります。	②
	■土地利用や都市基盤の整備状況を踏まえ、災害リスクが低く居住者の受け皿として可能性が見込まれる拠点周辺で新たに必要となる住宅地の形成を検討します。	②
都市施設整備	■音羽川の河川整備計画に基づく改修を関係機関に働きかけ、協力します。	①②
	■地域間ネットワークを構成する道路の事業促進に向け、関係機関に働きかけます。 ・県道豊川片寄線の整備と道路改良の事業促進	②
	■名鉄名電赤坂駅の交通結節機能の充実を図ります。	②
	■地域内の保育施設については、統合も含めた今後のあり方について検討します。	②
	■豊川市下水道基本計画に基づき、下水道整備を推進します。	②
	■支所、コミュニティなどの機能集約による音羽支所の有効活用を検討します。	②
自然環境	■赤坂宿の歴史と調和した風格ある道路環境の保全及び形成を図ります。	①
	■旧東海道や宿場町という地域特性を生かし、その保全や伝統行事の継承など歴史文化資源を生かしたまちづくりを図ります。	①
	■音羽川については、桜並木景観の保全及び親水空間の利活用を図ります。	①
	■緊急性、重要性に応じた林道の維持管理に努めます。	②
	■宮路山の保全を進め、住民の憩いと交流の場となる緑の拠点として、維持管理を図ります。	②
	■(都)国道1号線北側をはじめとした地域の優良農地を保全します。	②
都市防災	■上近久沢、天王川、山崎沢における砂防事業を関係機関に働きかけます。	①
	■音羽川、室川などの河川改修、護岸整備を関係機関に働きかけます。	②
	■安全な住民生活を確保するための治山対策（溪流部の堰堤整備など）を関係機関に働きかけます。	②

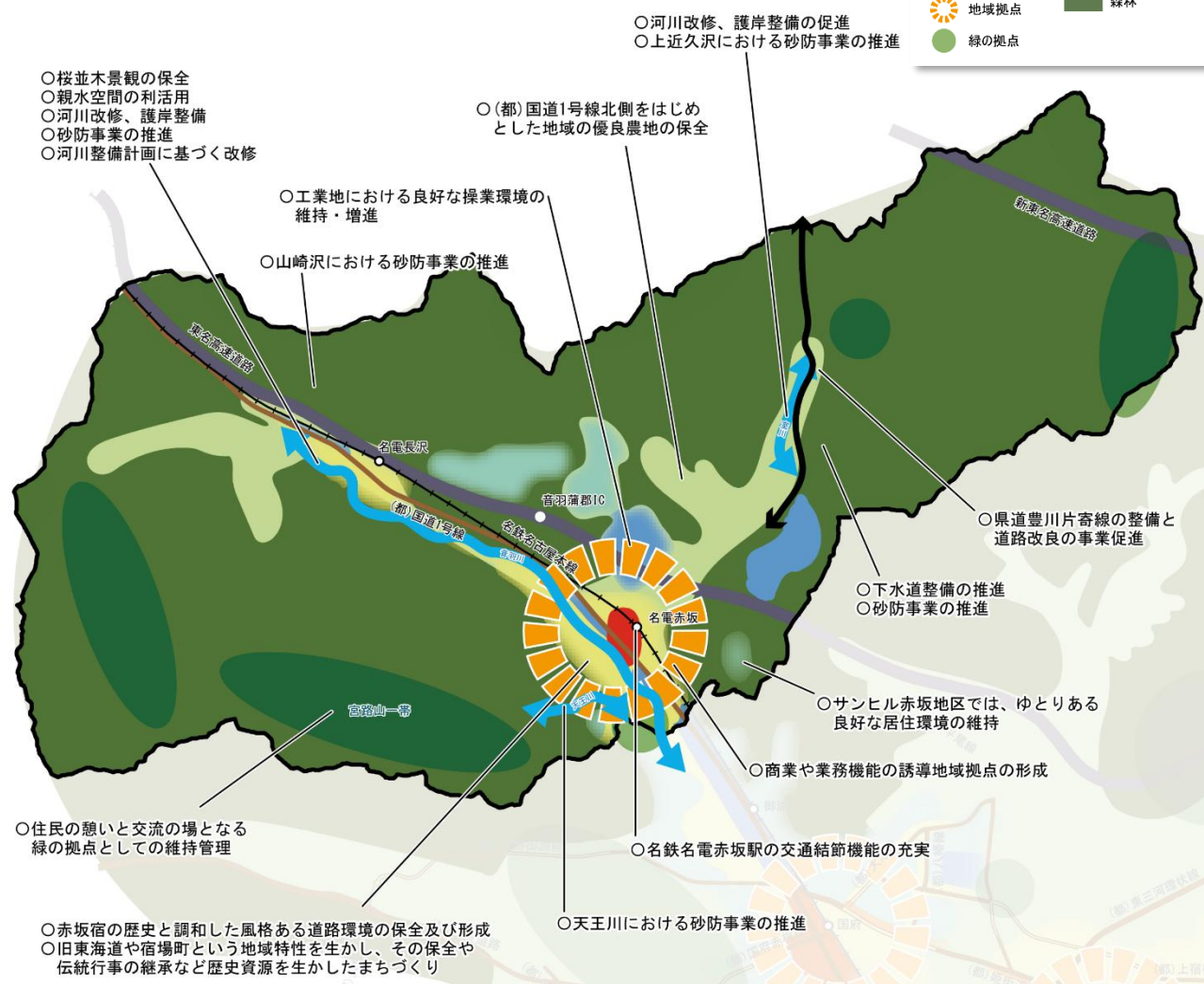
(7)地域のまちづくり方針図

【地域全体】

- 統合も含めた保育施設のあり方の検討
- 安全な住民生活を確保するための治山対策（渓流部の堰堤整備等）の促進
- 緊急性、重要性に応じた林道の適切な維持管理
- 支所、コミュニティ等の機能集約による音羽支所の有効活用の検討

凡例

	中学校区		土地利用
	高速道路		専用住宅地
	河川		一般住宅地
	都市計画道路		沿道複合地
	整備済		商業業務地
	未整備		工業地
	拠点		農地・集落地等
	中心拠点		森林
	地域拠点		
	緑の拠点		



(8)市民協働で目指す取組

- コミュニティバス（地域路線）のルートやバス停の位置、ダイヤなどの改善の検討を進めます。
- 音羽川周辺や宮路山において、清掃や草刈りなどの美化活動を進めます。

宮路山どうだんあいご会の活動



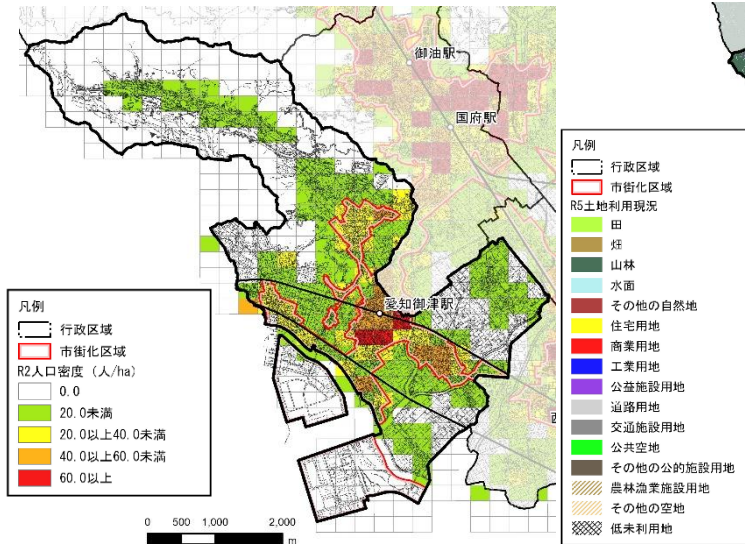
御津地域

(1) 地域の現状

- 市街化区域の人口密度はJR愛知御津駅周辺などで40~60人/haの地域がみられる一方、20人/ha未滿の地域が大半となっています。
- JR愛知御津駅周辺は住宅用地となっており、商業用地は点在しています。臨海部の埋め立て地は工業用地として整備されています。住居系市街地には小中学校や文化会館などの公益施設用地も分布しています。

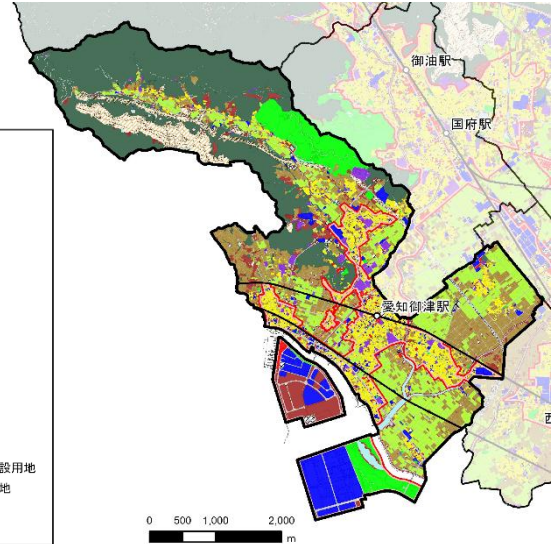
御津地域		平成27年	令和2年	令和7年	市全体からみた御津地域の割合(R7)
地域全体	面積(ha)	1,917.0	1,917.0	1,917.0	11.9%
	市街化区域面積(ha)	462.9	462.9	462.9	13.0%
	人口(人)	13,482	13,457	13,009	7.0%

図表 ゾーン別人口密度



(資料: 令和2年国勢調査)

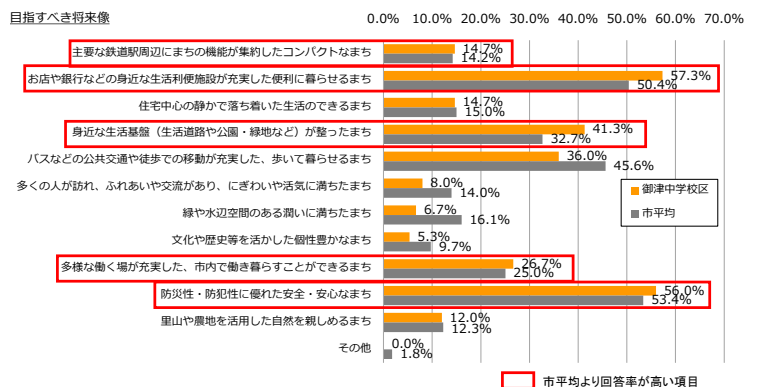
図表 土地利用現況図



(資料: 令和5年都市計画基礎調査)

(2) 地域住民のニーズ

- 目指すべき将来像について、「お店や銀行などの身近な生活利便施設が充実した便利に暮らせるまち」、「防災性・防犯性に優れた安全・安心なまち」が回答率50%以上と高くなっています。そのほかに市平均よりも回答率が高い項目は、「身近な生活基盤(生活道路や公園・緑地など)が整ったまち」などが挙げられます。



(3)地域特性と都市構造上の位置づけ

- 市域西部の三河湾に面する地域で、名古屋、豊橋方面へ通じるJR愛知御津駅を中心に市街地が形成され、駅周辺地区は地域拠点として位置づけられています。
- 臨海部には御津1区、2区の工業団地が造成され、工業集積の拠点となっています。
- (都)名豊道路、(都)東三河環状線などの広域交通の結節点となっています。
- 西部地域とまたがる東三河ふるさと公園をはじめ、御津山園地、三河臨海緑地は緑の拠点として位置づけています。

(4)都市づくりの目標に対する地域の役割と課題

都市づくりの目標	地域の役割と課題
①生活圏ごとに様々な機能が使いやすく配置され、歩いて暮らしやすく、住みたいと思える都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・JR愛知御津駅周辺は地域拠点としての商業機能、生活サービス機能などの充実 ・JR愛知御津駅周辺の基盤整備と魅力ある歩行者空間の充実
②多様な産業が集積、連携し、歴史・文化を生かした多彩な交流が育まれる魅力ある都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・臨海部の御津工業団地の整備と企業誘致の促進 ・広域交通の結節点としてのポテンシャルを活用した機能誘導や人々の交流の活性化
③市民がいつまでも安全で安心して、暮らし続けることができる都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・既成市街地の居住環境の充実 ・臨海部における津波や高潮などの防災機能の強化
④山並みや田園風景、海や川を守り、都市の個性が輝き、地球環境にもやさしい都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・東三河ふるさと公園や御津山一帯の自然環境の保全と活用 ・三河臨海緑地の充実を図り、レクリエーション活動の活性化
⑤多様な担い手が支え、連携・協働する安定した都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・支所、コミュニティなどの機能を有する公共施設の再編及び統合の検討

(5)地域のまちづくりの目標

- ①広域公園や臨海緑地などを中心とする自然やレクリエーションの活性化によるまちづくり
- ②JR愛知御津駅周辺をはじめとする利便性の高い地域拠点としての魅力あるまちづくり

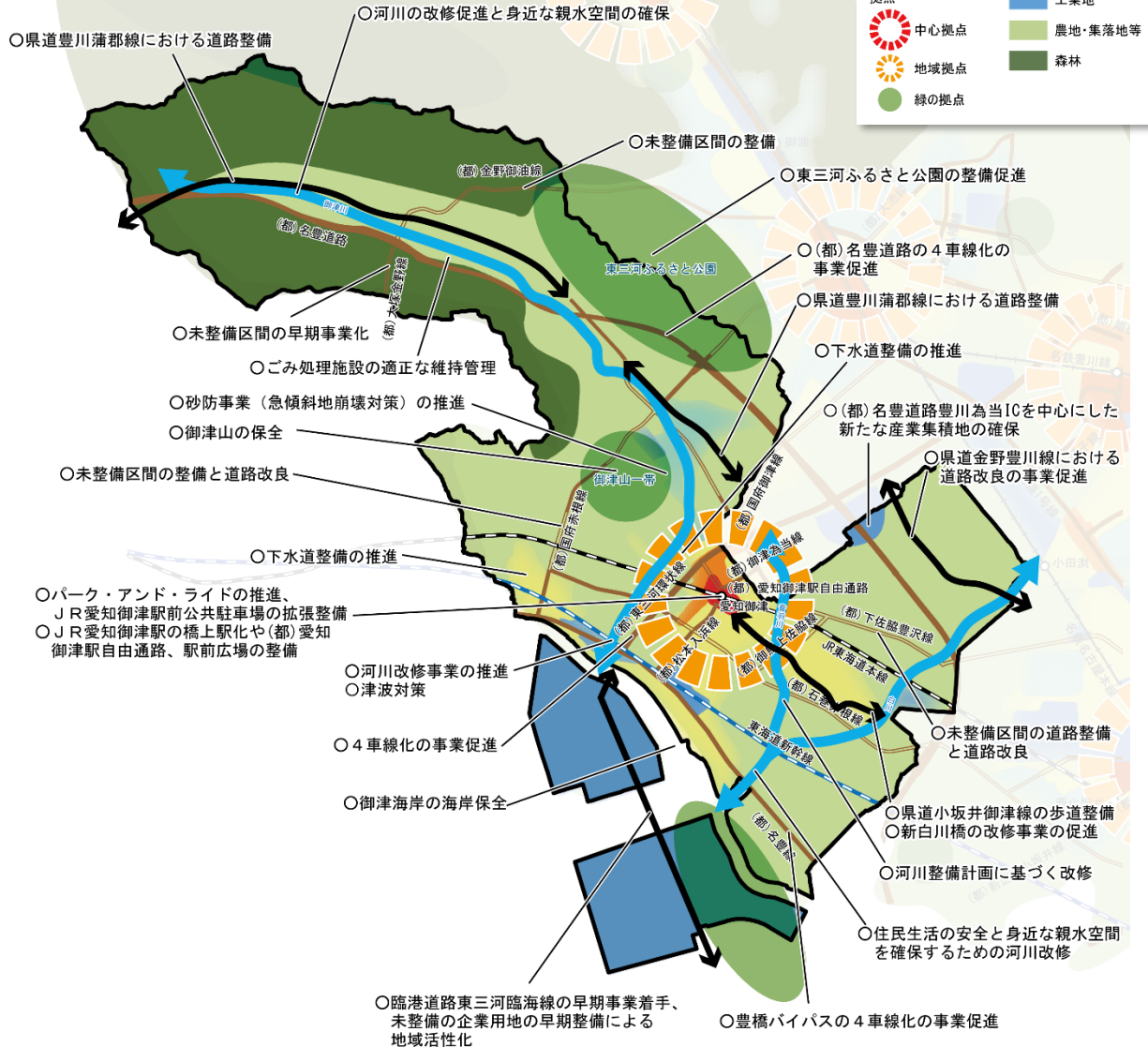
(6)地域のまちづくりの方針・施策

項目	方針・施策	目標
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ■臨海部の機能向上を図るため、臨港道路東三河臨海線の早期事業着手を関係機関に働きかけるとともに、未整備の企業用地の早期整備による、地域活性化を図ります。 ■(都)名豊道路開通による周辺地域への影響の緩和を関係機関に働きかけるなど、将来にわたり良好な居住環境と地域の一体性を図ります。 ■(都)名豊道路沿線において新たな産業集積を確保します。 ■土地利用や都市基盤の整備状況を踏まえ、災害リスクが低く居住者の受け皿として可能性が見込まれる拠点周辺で新たに必要となる住宅地の形成を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ② ② ②
都市施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ■広域幹線道路の整備に向け、関係機関に働きかけます。 <ul style="list-style-type: none"> ・(都)名豊道路の4車線化の事業促進 ・(都)東三河環状線の4車線化の事業促進 ■地域間ネットワークを構成する道路の事業促進に向け、関係機関に働きかけます。 <ul style="list-style-type: none"> ・(都)金野御油線、(都)下佐脇豊沢線、(都)国府赤根線の整備と道路改良事業促進 ・(都)大塚金野線・県道豊川蒲郡線・県道金野豊川線 ・県道小坂井御津線の歩道整備 ■東三河ふるさと公園の整備を促進し、郷土の自然環境を生かした景観の確保と憩い、交流の場の整備を愛知県に働きかけます。 ■白川における新白川橋の改修事業の促進を働きかけます。 ■支所、コミュニティなどの機能集約による公共施設の再編・整備を検討します。 ■地域拠点であるJR愛知御津駅及び周辺は、橋上駅化や(都)愛知御津駅自由通路、駅前広場の整備を進めるとともに、生活環境及び利便性の向上を図ります。 ■豊川市下水道基本計画に基づき、下水道整備を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ① ① ① ② ② ②
市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ■木造家屋の密集する地区については、地域と連携した防災性向上に向けた取組を検討します。 ■鉄道利用者の利便性向上と脱炭素社会実現に向けて、パーク・アンド・ライドを推進します。また、JR愛知御津駅前公共駐車場の拡張整備を行い、鉄道利用の促進を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ② ②
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ■住民生活の安全と身近な親水空間を確保するため、御津川、音羽川及び白川の改修を関係機関に働きかけます。 ■市街地に接した身近な自然である御津山の保全を図ります。 ■ごみ処理施設の適正な維持管理の継続に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ② ①
都市防災	<ul style="list-style-type: none"> ■地震対策として、御津海岸で海岸保全を関係機関に働きかけます。 ■洪水対策として、御津川の河川改修事業の推進を関係機関に働きかけます。 ■音羽川の河川整備計画に基づく改修を関係機関に働きかけ、協力します。 ■河川において、安全な住民生活を確保するための砂防事業の推進を関係機関に働きかけます。 ■御津山区域における砂防事業(急傾斜地崩壊対策)の推進を関係機関に働きかけます。 ■御津川における津波対策を関係機関に働きかけます。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ① ① ① ① ②

(7)地域のまちづくり方針図

【地域全体】

- (都)名豊道路開通による周辺地域への影響の緩和により将来にわたり良好な居住環境と地域の一体性の実現
- (都)名豊道路沿線において新たな産業集積地の確保
- 支所、コミュニティ等の機能集約による公共施設の再編・整備の検討
- 安全な住民生活を確保するための砂防事業を関係機関に働きかけ
- 木造家屋の密集する地区については、地域と連携した防災性向上に向けた取組の検討



(8)市民協働で目指す取組

- コミュニティバス（地域路線）のルートやバス停の位置、ダイヤなどの改善の検討を進めます。
- 三河臨海緑地における緑化や環境活動を進めます。
- 東三河ふるさと公園内において、竹林整備などの管理により里山保全を図ります。

桜元気広場ボランティアの活動



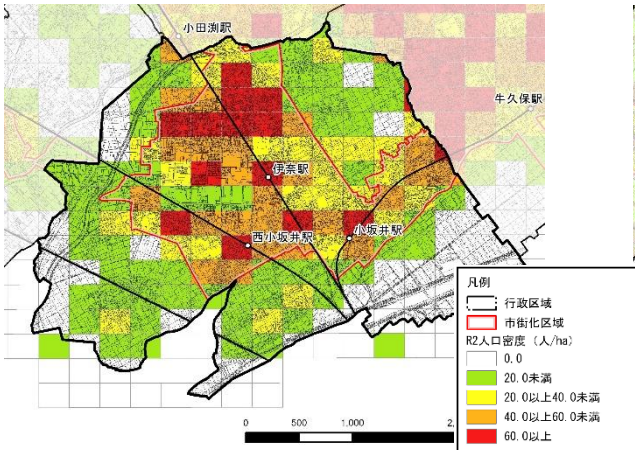
小坂井地域

(1) 地域の現状

- 市街化区域の人口密度は、鉄道駅周辺地域では 40～60 人/ha と比較的高くなっていますが、周辺部では 20～40 人/ha の地域となっています。
- 鉄道駅周辺に商業用地が分布し、周辺部は住宅用地となっています。JR東海道本線と名鉄名古屋本線の間の区域にまとまった工業用地が存在するほか、小規模な工業用地が市街地内に分散しています。住居系市街地には小中学校や支所などの公益施設用地も分布しています。

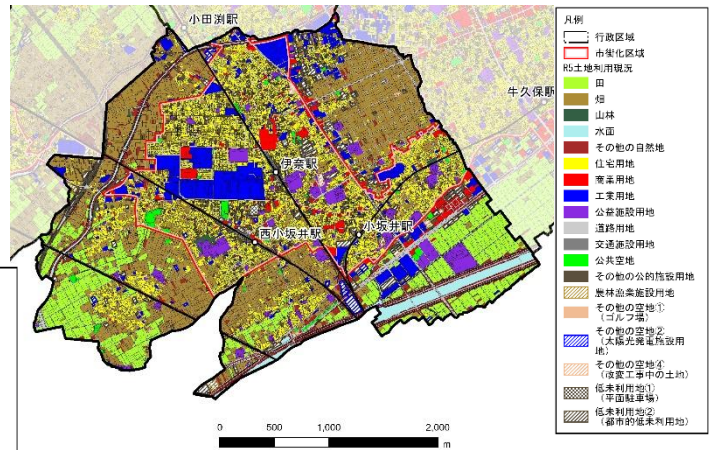
小坂井地域		平成27年	令和2年	令和7年	市全体からみた小坂井地域の割合 (R7)
地域全体	面積(ha)	992.0	992.0	992.0	6.2%
	市街化区域面積(ha)	379.8	379.8	379.8	10.7%
	人口(人)	21,973	21,860	21,772	11.7%

図表 ゾーン別人口密度



(資料: 令和2年国勢調査)

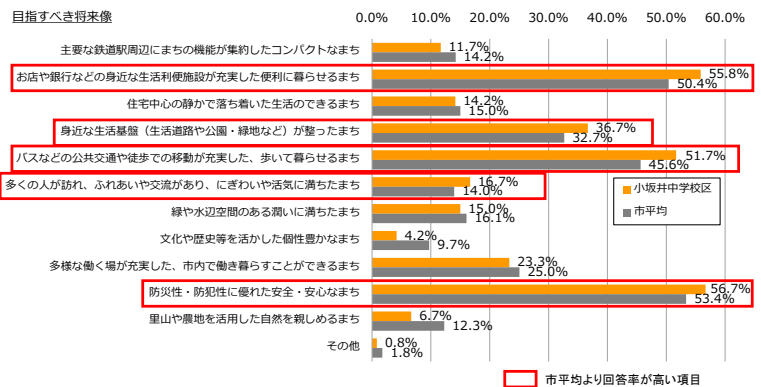
図表 土地利用現況図



(資料: 令和5年都市計画基礎調査)

(2) 地域住民のニーズ

- 目指すべき将来像について、「防災性・防犯性に優れた安全・安心なまち」、「お店や銀行などの身近な生活利便施設が充実した便利に暮らせるまち」などが回答率 50%以上と高くなっています。そのほかに市平均よりも回答率が高い項目は、「身近な生活基盤（生活道路や公園・緑地など）が整ったまち」などが挙げられます。



(3)地域特性と都市構造上の位置づけ

- 市域南部の豊橋市境にあり名鉄伊奈駅、JR西小坂井駅、JR小坂井駅の3駅が近接して立地、3駅周辺が地域拠点として位置づけられています。
- (都)名豊道路が整備され小坂井御津インターチェンジが開設、さらに(都)国道1号線、(都)前芝豊川線などにより広域交通のポテンシャルが高まっています。

(4)都市づくりの目標に対する地域の役割と課題

都市づくりの目標	地域の役割と課題
①生活圏ごとに様々な機能が使いやすく配置され、歩いて暮らしやすく、住みたいと思える都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・近接する3駅の連携を図り、地域拠点としての商業機能、生活サービス機能の集積促進 ・地域拠点としての基盤整備と魅力ある歩行者空間の充実
②多様な産業が集積、連携し、歴史・文化を生かした多彩な交流が育まれる魅力ある都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・(都)国道1号線沿道の工業集積地などにおける周辺の住宅地との環境の調和 ・広域交通の結節点としてのポテンシャルを活用した機能誘導や人々の交流の活性化
③市民がいつまでも安全で安心して、暮らし続けることができる都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・既成市街地の居住環境の充実 ・支所、学校などのコミュニティの核となる公共施設の機能の充実
④山並みや田園風景、海や川を守り、都市の個性が輝き、地球環境にもやさしい都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・豊川放水路などの水辺環境を生かすとともに、市街地内の低未利用地を活用したオープンスペースの確保などによるゆとりある環境形成
⑤多様な担い手が支え、連携・協働する安定した都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理及び既成市街地の環境改善における地域住民と連携したまちづくりの推進

(5)地域のまちづくりの目標

- ①市街地内に近接する鉄道3駅の連携と機能分担などによる、地域拠点の魅力あるまちづくり
- ②既成市街地の居住環境の充実、緑の創出などによる、ゆとりと潤いのあるまちづくり

(6)地域のまちづくりの方針・施策

項目	方針・施策	目標
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ■名鉄伊奈駅、JR西小坂井駅、JR小坂井駅の各周辺地区について、住民生活を支える商業機能の集積を図ります。 ■市街地内の工業地区については、周辺の住環境との調和を図ります。 ■土地利用や都市基盤の整備状況を踏まえ、災害リスクが低く居住者の受け皿として可能性が見込まれる拠点周辺で新たに必要となる住宅地の形成を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ② ①
都市施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ■主要幹線道路の整備に向け、関係機関に働きかけます。 <ul style="list-style-type: none"> ・(都)名豊道路の4車線化の事業促進 ・(都)前芝豊川線(国道151号・国道247号)と(都)国道1号線との立体交差化の事業促進 ■地域間ネットワークを構成する道路の整備に向け、地域及び事業主体などの関係機関に働きかけます。 <ul style="list-style-type: none"> ・(都)石巻赤根線の早期事業着手 ・(都)伊奈美和通線の道路整備の推進 ・(都)中通線の整備 ・(都)小坂井中条線の整備及び(都)篠束野口線との交差点改良 ・県道前芝国府停車場線の歩道整備 ・県道小坂井御津線の平坂街道踏切拡幅と片歩道の事業促進 ■交通結節点となる名鉄伊奈駅、JR西小坂井駅、JR小坂井駅へのアクセスを高めるため、関連する道路整備の課題などを検討します。 ■名鉄伊奈駅における駅前広場、JR西小坂井駅における駅前広場及び連絡通路の整備のあり方を検討します。 ■市街地における雨水排水対策を推進します。 ■小坂井中学校整備に伴い歩道整備を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ① ① ① ② ②
市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ■宿町長者松地区の土地区画整理事業の支援及び都市機能の改善と健全で良好な住環境の形成を図ります。 ■伊奈地区の第一種低層住居専用地域については、地域の理解、協力を得ながら、まちづくりのルールづくりや必要な基盤整備について推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ②
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ■佐奈川については、親水空間の利活用を関係機関に働きかけます。 ■善光寺川の改修や、周辺環境の保全と形成を関係機関に働きかけます。 ■伊奈城趾公園をはじめ、歴史的な景観を含めた周辺環境の保全に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ② ② ②
都市防災	<ul style="list-style-type: none"> ■佐奈川の河川整備計画に基づく改修について関係機関に働きかけ、協力します。 ■善光寺川流域、走川流域において浸水被害の軽減を図ります。また、河川整備計画に基づく改修について関係機関に働きかけ、協力します。 	<ul style="list-style-type: none"> ② ②

